[illegible]六年六帖の[illegible]
[illegible]所のこと[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]園の事

の間に山水の景色
いとゆたかにさとりぬ
ふかき意にのこりの
はをかきて
ながめつるおもひをかの
ぬしに帰
らせ給ふ事を思ひ

きこえ給へ
ばかの人の
はしたなくこそ
思ひ
給へ
名ばかりはおもひ
あるべきにかの
ひとの本意とは
ひとりこの事
ばかりの
ふるさとおもひ
出給へ

ぞなおもやりしるきうこそまされ
あまれ能やのおりハ千體の
佛他まで一切經ハうきらそこしもろ
まいのり擯露きしはいふらひ
まことにかゝしの所てそれ

四安の啟八　井上文雄識

於てハ年ちて渡かりしより春暮て友をまねきおもしろき語と
以用も心をこめて歌を詠て詩も作りける事の學者の頃より
深う以て口に常にかゝる事ハ世に名ある人の
ことハ是非を論せす古哲の議論ハ文武ハ北學し心ふりて安
高祖以後志後ハ九百年餘くる移く有教も人ならぬ見もなし
那之難拂の先哲あつめ其手に取て和するに學を歎き那し得る
雖理ありも海に潮の上へ申して心をあやまりく流るを
那め信く文ある世に高き何も露を用し其所あるとも
手那を姪き文學深く人文に道にあるを稱して長き
年久しく姪みて行心おまつ挿ふて異與詞の其見たる志通
ふ那清き校那あるに遊ぶ事世学詩文睦ひ來好まる
其事心おく稱く崇ぶ所も野すふ人は満ちすき詩安慶

[illegible]

[illegible] 明[illegible]

[illegible]法の華[illegible]葉[illegible]

[illegible]志[illegible]向草も形九重[illegible]道[illegible]淺

[illegible]志[illegible]し 伊庭時言[illegible]天保

十四年[illegible]一とせ[illegible]八月吉日

[illegible]

棠居謹書

古今和歌六帖標註

提要

古今和歌六帖は万葉古今後撰につぎてふるき歌どもあれど
うたよまんとする人はたゞまくらことばめきてよみやすき本となせりけれ
みや今つたはれる本はいたくみだれあやまれるところ〴〵のおほかるをいかにせん
されば契沖阿闍梨加茂縣主などもやう〳〵心つきて撰集家集いへるさま
ざまくさ〴〵の書ども校し合せ誤れるを正したらざるを補ひ思ひえられたる
ところもあれど[illegible]したらざるところ[illegible]淺也
真砂の数多きてうたしあれば[illegible]淵る山の井のあかぬなども[illegible]
かれば我枝園のうしそれをしもふかくなげきてそのまゝおかるゝやうにいそぐこの本を
うひまなびの人らちのよまんもうたがひもなくおぼつかなからんやうにおもひ

おこしてきぞふ等をもそりつれど万葉攻證をもぢめて伝れと古書どるを註
さくよいとまあるれぞいうもんおをぬ清よらくあさとゆぐね行ぬおのれ
もうもてようそのんぐ〜ありつれぐよろこびうみまりてやぐくるをめ〜その
校〜もきれる抄物髓脳まぢをもひろく考へまき本集ゑ以仕本に
みくる那のうぎうをひあつをかんひとりあるうぐもぐそのふるる
をうう〜ゆ〜ふ考へ標註るるなぐ〜つぐやひとりをみ
めきたるものゑなるうう凡此ふ〜ゑ万葉のうをとられるきや
千百八首そのうちうまのの万葉の訓あやまりて此ふるうく行〜
きもありまく万葉のうよろ〜て此書のうちきもありふるつるゆや
まれるぐ師翁が攻證の訓ゑきぐびて校正せり

時代

袋草紙云六帖貫之女子所為也故号紀家六帖まく八雲御抄云六帖
貫之或云兼明親王又云六帖後中書王六條宮まく詞林採葉抄云六帖八貫之ガ女ノタメニ
集メタリ仍号紀家六帖まく和歌色葉集云宇治喜撰ガ式六條中書
王の六帖源順ガ樹下集云々かくのごとく作者一定あらぐ契沖云ふるぐる人ふ
あ説あり紀ふるる紀貫之ガ女ノ為ぐと所ふる紀氏六帖と以ひ
ふるるる六條の中將ゆ〜ものいつあさを行るよ〜中されるる先達も
あり後撰よもきるうよみ順高遠重之など名をいうふてうあり
齋宮女御祐宣馬内侍恵慶法師など名ゆあ八さあも名西拾遺集
ゑ入るる作者ゑ是ゑぐびなけ等ゑ是ゑ後ふる古きる園融院花山院
なぐの法師出ゑるるやまく六條宮ゑ世ゑ紀氏六帖
といふるれどもいうある人といふやもるるを紀の貫之ガ女の集でなぐ

いつもよりなほ殊にいそぐ古今集より此六帖と同じくおほく入るふ詞の
あるなもなりうふ六帖のうをとりてその時のあるなるなるべしてあげ
その形ること實平の法師、新撰萬葉集に歌をこそ形ゑして古今集と
とるたぐひありさて古今集出てより後その集より詞をいりへぶりふへ
あるべきなどの人もきこえず世のいきおひもきるるを世えのうろ
よりも女の心ふかきよくんをいであんかきび六帖ハ古今集よりさきよ
りつ〳〵まれるるゆゑけ〳〵今此説を案ずるに吉澗の説もこころあまぐ
れ契沖のうをまきりたん集中をつら〳〵ゑるに要〳〵とありてよく人きび
のうるまるあぐ〳〵人のうるまる百番の歌等ありその女〳〵てうぶ新の歌を
かざりいたやまるべ〳〵ぶ要〳〵の姫の作に行ざるるまきるまる六條
宮の法仏ちるといふ説もうみぐ〳〵いうるまるいふまるべてのきざはをきあきふ

さるるもいたぐ題をいやまるるすゝれるうぶたるへバ樋の影みうすゝひ社
うるを人を狙の影ようるの日もとよるある影をいきゝるたぐひさるに男るめ
ゑに出るるふみぐ江談抄巻四に此六條宮の法事をきるて年々別
思驚秋鴈夜々幽聲到曉雞後中書王文藻此詩已後万人歎
伏〳〵るかる大才のきゝいぐでらさる得りたぶ志ふへき源平盛衰記
巻七に六帖抄トイフ双紙ヲゾ被渡ケル彼抄ト申ハ村上帝ノ第八御子具平
親王家ノ御集ナリ此親王ヲバ六條宮トモ申後中書王トモ申中務親王
トモ申ケリ云々まる本朝書籍目録に六帖貫之或兼明親王とあるてまる
私記六帖後中書王六條宮と別るるるうゝ此ハ此古今六帖と中書王の六帖とかるより
別のあるるを名のあるゝきるるりてふゝまぎれるるたぐ〳〵されバ契沖が
拾遺六帖序に以所載作者粗推年代疑寛和以後才女之撰耶とい

もれしるよくこの実をけうこやいふべし

書名

此ふみを六帖とも名つけられしもの契沖が説のごとく白氏六帖の名をもてるなるべし唐書藝文志に白氏経史事類一名六帖卅巻とあるや六帖とふ書名のもじめあるべきもの後宋孔傳が後六帖を合せて百巻とも是を白孔六帖とふあるは義楚六帖八詩六帖補などおほくふ宋代のふみども形れば此六帖より後のものにまさる新撰六帖現存六帖等のうち書名まさに此ふみの名をもてるべうさて六を増韻に三両為六陰数也ともまた兼三才之数とも又帖を和名抄文書具に文字集畧云帖請物疏也とのみみて和名なし今俗に帖をとぢぶみよむもいさゝかたがへり説文に帖帛書署也とみえまた東帖拝帖稟帖などいふ名あり皆尺牘のまひして書冊に

義にあらず但通雅に帖経以試曰試帖乃摠括経文類聚之誦習以應帖試謂之帖括とあるも是今いふとぢぶみに甚ちかし書籍いまゝ巻子なるもあるべこうとうるあるべし此書も元は巻子なりけんるに部のさまにもあれあり一巻二巻を一帖二帖といひしるべし本朝書籍目録に六甲六帖滋岳川人撰ともまた袋草紙九帖とも又西こゝ六甲六巻袋草紙九巻とふがごとく川人朝臣は貞観十六年閏四月廿七日に卒去せられしるし三代実録にみえたる六帖を何ゝ白居易にあるべしおくれたる人にあらず

部類

此のふみ部をとれる凡廿五類をまうけることすべて五百十六あり巻つゝ詠さまいと奥あり毋一帖に歳時と天象あり四時に別にもまうする不なるべきもの四時の初をもて次に天象をつゝもまう毋二毋三に地儀と毋四に

哀祝別とりて雜体を別よつくしたまふ八人すなはち天地人の三才は
もて次第をり此帖の哀祝をそなふざふのおもひありその事ゝ人のこゝをいでたの
まんといふ下の句よりいろ〳〵のみそなたらをひつゝもるゝこと三十九首あり
玉皇本行集經ふ　設使江河水波浪能生蓮慈烏毛能白如經故難遇
設使亀生毛堪採為衣服夜月能消氷如經故難遇
設使蚊蠓足堪構為舟橋能載一切重如經故難遇
設使黄口雀能銜諸太山擲之地方畏如經故難遇
設使一葉舟力能載崑崙浮渡於大海如經故難遇
などあるを似てとをゝ世五帖ふまる雜思あり古今世四帖のさふのおもひの
うをひゝきてくをしくろまる似てう歌を哀をすゝけされば万葉まも
春雜歌秋雜歌などゝ相聞の部と新歌おなもすあつち哀

なり古今ゝりとりて哀の部をまこと是ありされば此ゝまも哀のうゝ
世四世五世ゝをるゝや世六帖は草出木多なり是も是木出
魚となるべきを句をへゝ對しゝる秀句をゝるやうまおれしう草
ゝ出木ゝをるそのゝをありてをの

作者

集中作者まゝて百九十三人ありうゝ山の部のゝ山へのおとゝるまゝのたゝび
その作者ふべゝざゝをいゝるきんその作ちおのゝ小作ゝも出たゝ名れゝ不
せけ業者器ゝたゝ公卿補任古今目録歌仙傳作者部類尊卑
分脈等ゝをりていきゝゝ父祖を書つゝ犯論弁あるゝびおゝうれと
ちげきはいゝひてまゝゝいゝゝ此書作者のまゝ一ざは勅撰ゝゝやう
かゝりていゝ〳〵ぶりゝたゝぶ貴之ゝありて事柱のゝゝありまゝよゝ人

しらのうた作者正しきものならぬたぐひなきにあらざれば初学の人ゆまどふることはさらなりいにしへやんごとなき人たちも猶あやまることすくなからず其一帖なかしのたゝへの條に八代女王とてきこゆふよりおほのしげきすゝしといふ万葉の歌をのせ侍るみなぎするあをの小河のせとらへる歌をのせられたるを新古今集に八代女王とて出されたるはまさしく此六帖を勅撰の例にひかれたる誤りにかゝる類ひその外にもありしかどおほけりひきえてしるべし

歌數

此書のうたを今かぞへてみるに凡て四千四百七十一首ありそのうち長歌九首せんどう歌十七首ありまた此外にもれて他の書に六帖とて出されたる歌四十七首ありそれは第六帖の末に出したりそを合せて数ふれば四千五百十八首也但歌にもれて二所に出たるは百四十二首三所に出たる歌三首ありそれをうたがひを除きて正しくかぞふれば四千三百七十首あり然るに袋草紙に四千六百九十六首とみえたるはいかにたがへり但清輔朝臣も本々不定之といはれたればさまざまなる歌数のさだまらざりしなるべし

別本異同

おほよそ古書を注する人まづよき本をもとめ出て校合をむねとすべきはいふもまれるを正しくみせるを補ふのえきあれどこされば此らも異本四本を以て校正せり集中様々あるもあり桂園翁の本あり其本は寛文の奥書ありておほよそは流布本と似たれど甚よろしき所ありまた工とあるもあるは梅齋ぬしの本なりそれは嘉禄三年三月廿日借民部卿本書写畢按老或説六條家文覚之女子筆云々源家長といふ奥書ありていとくよろしき古写本にて第二帖秋の歌冬の歌新の野のちり十四首流布本

[illegible]を此本にておぎなひまゐらせ[illegible]藏と[illegible]の古写本あり
[illegible]極斎翁の本と大同小異なり巻五帖あやのうゑ二字と先云帖末のうゑ
[illegible]て下[illegible]此本にて補ひまゐらせ[illegible]今ひらがな写
本なりし[illegible]本と大[illegible]同じされどよき和[illegible]

校正書目

此書紀万葉をもとめてあきらの書をて校正りその書名を正しく[illegible]
さんそいとしてこれらをもとめたれば[illegible]一二字をうるのみにもとり
その標目左のごとし

古事記 記
古今集 古
詞花集 詞
日本書紀 紀
後撰集 後
金葉集 金
類聚國史 史
拾遺集 拾
新古今集 新古
萬葉集 万
後拾遺集 後拾
新勅撰集 勅

續後撰集 續後
續後拾遺集 續後拾
新後拾遺集 新後拾
寛平菊合 菊
亭子院歌合 亭
三十六人集
圓融院扇合 扇
恵慶法師集
三十六人撰 卅
大鏡 鏡
著聞集 著
續古今集 續古
風雅集 風
新續古今集 新續古
寛平后宮歌合 寛
日本紀竟宴和歌 竟宴
三十六人集補遺 古本
伊勢物語 伊
雲葉集 雲
朗詠集 朗
後葉集 後葉
河海抄 河
玉葉集 玉
新千載集 新千
神樂歌 神
新撰万葉集 新万
新撰和歌集 新撰
元良親王集
大和物語 大
金玉集 金玉
新撰朗詠集 新朗
萬代集 代
哢花抄 哢
續千載集 續千
新拾遺集 新拾
催馬樂歌 催
大江千里題和歌 句
土佐日記 土
朱雀院女郎花合 朱
近江御息所歌合 近
和歌九品 品
後六々撰 後六
寶物集 宝
拾玖抄 玖

和歌夫木抄 夫　能因歌枕 枕　童蒙抄 童　綺語抄 綺

俊頼口傳 口　奥義抄 奥　袋草紙 袋　初學抄 初

和歌一字抄 字　袖中抄 袖　八雲御抄 八　古來風体抄 体

秀歌大体 秀　桐火桶 桐　色葉和難抄 和　和歌色葉抄 色

右のうち万葉集を万とのべ古今を古と作者を出さるゝは作者不知のゆへなり

他歌枕名寄松葉集等までもひろく校正せりさて廿六人集も人丸集

貫之集とやうにまゝ書名を出るもれば あるべくはあらぬ集中出

所未詳の歌まゝ〳〵八百三十五首ありそのうちこゝいるぞや折ふしぶるも

おほうれど是年のかゝ校正をべき書もあけまゝいるもんそを志ひて海ぶんハ

あり〳〵古書をそゝあつ〳〵やまりもあるべれかとそいをず後の人よく考て

そも〳〵おの是此をかゝもあきを師よおそをうけたまはり〳〵も十年ばかり

まをれありきそれをうこゝろ日〳〵すりあ月をみみがきいそで疵あき玉よあさだを是

ぬぐ玉はしるひまくあく〳〵玉寄のふるふるをり〳〵あのふふたりなるをくもをぶ

動のお琴のひきもおくまぶ彩は動あるもをるなく玉箒はのれとうきはを

つ玉くしげふるをだりををりさをくつと泊〳〵をくぬ世のまをを

あらん人ふるをぶ藤石ありそをまをるべれどそれハ狩荊玉のうをもしの

やぶを師篇よそをたををまつまぶ一ふりうをを、のをまふやをうれ御よをり〳〵をを

あ〳〵ぶ年なが年ごをはいるぶきに巻だりは光ハををりぬよきあをんもをあむ

をを樫よ動をおくぶきをもあをぶいで玉松ぶをれををきハうき巻よつをへす

かく玉あをまをうんや板賀はいをるをををを世よ御やけよせをををんいをれをる

天保二年仲冬月十日あまり七日の日　山本明清

古今和歌六帖題目録

第一帖

歳時部

春

春立日　まつき　はいたちの日　乃こりの雪
初の日　わかの浦　あをやぎ　なこの乃雪
やよひ　三日　菜摘　

夏

初夏　更衣　卯月　うの花
神まつり　五月　五日　ねぬなわ
ふたゝ月　なごしのはらへ　夏のさて

宮内省図書寮文庫

秋

秋立日　初秋
葉月　十五夜
九日　秋のよる

冬

初冬　神無月
志ぐれ　佛名

天

てのふ　てる日
秋の月　冬の月
夕つく夜　冬の夜

七夕

彦ひき　なゝの夕
雲月　かゝら
うるふ月　早ぶれ
素の月　夏の月
雁の月　三日月
夕やゝ　ほゝ

契沖三本
文永の下
不火の條
あり此本
ハまちゝ
ア

春の風　夏の風
山おろし　あゝし
村雨　時雨
霧　志ぐれ
雲れ　雪
煙　ちり
かげろふ

第二帖

山

やま　山どり
ゝゝ　くま

秋の風　冬の風
ざふの風　ひかた
ゆふぐも　雲
このもと　きゝす
あゝれ　ちり
なる神　いなづま

さる　鹿
むさゝび　山川

山田　山ざと
いなほ　家
きのこえ　きみがま
城の　ちり
はたひ　うまや
田　夏の田
春の田　いなあわせる
かりほ　夏の野
野　かや
春の野
ざふの野

山の井　山びこ
たゆ　おくま
せき　系
やしろ　みち
秋の田　冬の田
そほづ
秋の野　冬の野
とま　ゆき

大雪　小雪
うづら　大たかり
みゆき　きぎす
かたかり　ちどり
都　ゐなか
うやこ　都どり
田舎　もゝち
園　郭
やど　やどり
家　里
いへ　ゐなか
屋　とまや
ふせや　井
かど　まがき
と

ちぶれ　とこ
人　たや　うふね
おきれ　うし　うま
とらいて　おんな　くるま
佛事　ほうし　あま
寺　鐘
第三帖
水 工本
ふり　をし　かも
ふほ　うし　いと
ふひ　ふな　たひ

あも　ひを　かと　このさづ
ちし　ひひ　るきた　ちぶ
おほの　網代　やな　えし
いけ　ぬま　うき　たき
ふるて　うたた　さた　ふち
湖　海　あま　たくも
ちほ　志賀の　ふね　つま
いのり　なの　なそ　藤
こもあ　ちまち　うら　かひ
おぎさ　一海　海　よる
海ゆふ　さた　いそ　ふく

みちのくの　かた
うあとの　てまくら

第四帖

戀

さいひ　うたたひ
うたぬ　ほのか
ふいごろ　ざふの見ひ

祝

いさひ　ひとのあ
別

ひとうれ　ぬさ
かるひび　なが涙

夢

うつみ　おもうげ
うつつ　うつつ

つま

たもけ　くめひ
さかぶ夢　ふるさき涙

せごろう

第五帖

雜思

さらぬ人　いひさしむ
あ　た　さらた
さと人をおもふ
人さまぬ　人よさらる
ふうもり　ふさり
二枝へだてる　恨へだてる
さをたへだてたる
ものごとを　をくてあひ

ひとへてい
あひおもふ
ときて見ふ
枝ひとりを
あうまうまく
ひご病閑てる
うちきてあへる
人をまつ

さしめてあへる
ひのひおもふぬ
いさでおもふ
初とり紙
一枝へだてたる
とり殺てる
よひのま
人をまつ

人をとぶ
とする
おもひづ
ちぎる
ちこのふ
おもひやた
ぐまぐぎ
とぎもと
たんよ

服餅

玉くげ

道のたより
とをぬぐ
むくもとふ
人をたづね
にのくも
思ひとづふ
義をもま
わがをた
かくみ

玉ぐら

ふたたび
いうくる
ぬまくる人
めづく
人ばま
ねどはぞ
をまぐ
かくまづ
ふるまもひ

かく

ひとづく
ぬぐ
ひつらふ
ぬもむる
ぐとをふ
人をとぐむる系
なきふ
今ひふ

わくもひ

たま
かづみ
まくく
たきも
塩やき衣
衣くん
かを衣
ふぐらも
ぬまぎぬ
裳衣
ひを
さをの
ふみ
ゆく
や
さや
さう
くの
かく

色

玉のを
ぬまく
玉ぐも
ぬまく
あき衣
るぐら
ぬまぐら
すを衣
ふをま
ざふの衣
ひとり
わび
ふを
たと
をを
あふぐ
はや
かさ

いろは　くれなゐ　むらさき　くさぐさ

みどり　いと　わた

錦綾

ふしき　あや

ぬの

第六帖

草

春の草　夏の草　秋の草　冬の草

ちくさ　ふくさ　ざふの草　やまぶき

なでしこ　なぎ　をみなへし　さくら

きのさた　をだ　らふ　きく

くさのう　きちかう　ちさと　ちくさ

くくり　さうび　ちかるや　かや

さちき　うきつぐる　ぬ　ぬまぬ

あし　ひし　ぬまあし　ぬまぬ形

あさび　うきぐさ　はきぎ　忘れぐさ

ちのぶ草　ちとせ草　せり　なだ

たで　むぐら　ゐ草　くび

さまつら　あをつら　あさぢ　ゐなぎ

はぎ　こうみび　ゐなぎ　ゐなぎ

ちくさ　おなぎ　ゐなぎ　さく

ゆり　あるる　ゐなぎ　ゐぐ

まさたづ　ひるげ

山たち花 ちやげ さし あふひ
うらぜみ ところ よもぎ こけ
いちご 志だ
虫
むし せみ 夏むし きりぎは
まつむし すゞむし ひぐらし ころゝる
ちやおめ くも てふ
木
木 志きみ そな あきの花
この葉 ちゝそ まゆみ かへで
松 かへ たけ たうんな

うめ ちやぜい 柳 さくら
うはざくら 花ざくら 山ざくら ひざくら
ふぢ たち花 あへたち花 志ひ
ざくろ なし 山なし もゝ
すもゝ からもゝ くるゝ さそぎ
むろ また かづら がふゝ
あふち かし くぬぎ つばき
かしは ほうがしは あをあうしは はゝど
岩つゝじ ひさぎ くそ ちゝつり
志きゝ あせゝ 山ぢさ ゆづるそ
かうがし つまゝ さねた

鳥

ひばり　さゝがちどり
うぐひす　かり
ちどり　よぶこどり
さだ　さゝこどり
もず　くひな

ひばり　かひ
うぐひす　ねぐら鳥
ちどり　この〳〵せ
さだ　かさ〳〵だ
つぐみ

古今和歌六帖第一

歳時

春立日　親月　元日　残雪
子日　若菜　白馬　仲春
弥生　三日　暮春　卯月
初夏　更衣　五日　卯花
神祭　早苗月　菖蒲
皆盡月　祓　夏盡　後朝
秋立日　早秋　織女　長月
葉月　十五夜　駒牽
九日　燈盡

初冬　神無月　神樂
志波須　佛名　霜月　歲暮　潤月

天

漢渚　照日　春月　夏月
秋月　冬月　雜月　三日月
夕月夜　有明　夕暗　星
春風　夏風　秋風　冬風
山下　嵐　雜風　雨
白雨　寒雨　夕多千　雲
露　志津久　霞
霜　雪　霰　氷

火　煙　塵
電　景呂不　雷鳴

後撰雑一　躬恒

ひるあれやこぞまがへる月うげを
けふこそかいとんきのふとやいさん

古春上　朗　後六

[illegible]

[illegible]　筑前守棟梁男

紀貫之　先祖未詳

万葉十二
戀君吾哭涙白妙袖兼所漬為便毋
奈之

同　新撰　朗

[illegible]

家　新朗

[illegible]　大和

夫春二　歳内立春

[illegible]　散位安綱男

拾春　家　朗　金玉サ

[illegible]　大和

古春上　源當純　寛　新万　朗　金玉

[illegible]

たゝ　古寛　新　金

[illegible]

月

万八　王春上　大和

[illegible]

大春三　柳

[illegible]

大伴坂上郎女　佐保大納言安麿郷女

[illegible]

[illegible]　天智天皇皇子

延喜神名帳云摂津國豊嶋郡垂水
神社
袖中抄巻三云摂津と播磨とのさひ
ふたつ水と出る岸より
垂水の明神と神おはしますの石の上
におちくれば水とぐだるこゝをいふ云
和名抄燈火類云説文云烽燧度布
邊有警則舉之
續紀元明紀云和銅五年正月壬辰
慶河内國高安烽始置高見烽及大
倭國春日烽以通平城也

万八 新古春上 夫春三早蔵
いとたゝぐたるひの上はさらしのもとに出る雪はなりけるかな 三万

同 新撰
はるやたれ雪やおきとやとうん雪だにもいまだもあるうな
万十 新古春上 赤人集 古本人丸集
今さらに雪ふるやまのうゑもうゑもうゑもうゑ 八万 免赤新
夫春二當
山ぢのみぢはうしてうめるるふ雪のむつきの中よりなりけり 糊線 ヲカス

古春上 家
まちきめ人をいへども雪ふるまちぬるぎりはあらじとぞ思ふ

同 よしみちべ 新撰
このそぐ雪のうぶ火の那をる出てよりふくうあらくうとあつまりてん

後京言忠 從五位下安繩男

和名抄衣服類云説文云幅曰襁褓和名
波小兒被也

拾春 朗家 世天家持の哥を誤り
つるの子のあるあるあるあるあるあ
山のべのあらん 傳赤詳

同 新撰
そぢい法は 良峯宗貞男

古今去名序ヲ誤ル
此きのふこそうつ世はうつ世はでよいそれ
しづく五十の作者不知を平ゝすべ
拾遺ニ赤人とあるよう赤人集まかへ
朗詠ふ人丸ゝあるふくうて人丸集ヲ
入ヲたるあるべし家持集ヲさく入
ヲ入る誤甚しといふべし
拾遺家集ヲちとあるふあるべ
べしちハ俗ヲ以前とらふきあり
のちまてハうのときゝそば

万十 拾春赤人 朗人丸 世
家 古本人丸集 古本家持集
ぬしん 村
大和
つゝぬき

拾雜賀 家 を拾家
きのふよりのちをバ百くの雪ふ始ゆくふすでみけ
雲賀 家 風賀 雲 家 風
あるゝ雪のうるるとも雪のちるゝ雪のうるゝ

拾春 家 金玉
大和
のくらはを
源のちげやき 秀夢兼忠男
さ拾家余
宣長云あるゝ雪ちぐ雪のうるゝ万葉
ふ数ちべ多くあり雪ちるゝの
さまのほゝ似るあるいは

万十 新古春上 赤人集
梅ごくるあきてうつろ雪のちぬ白ふるあと雪ぞふる
雪ふく

古春上
ちのをたる雪の宮をちるべ
おもひやきゝ人ぞ雪ゝき

後撰戀一
よゝ人ゝしば
雪ふをバ雪もあき雪もさるぞ雪ぬる
お月ふちのうね 先祖赤詳

拾遺 家
[illegible]

万葉四 笠朝臣金村
安蘇々二破且者雖知之加須我仁
黙得不在者云云

万十 家
[illegible]

あこの人

続古春上 家
[illegible]

貫之

万八 後春上 拾春 河御幸 大春三賞
[illegible]

大納言旅人男

万十 風春上人名 恋人集
[illegible]

万世 新古賀 夫春一
[illegible]

大伴やかもち

被云云子日宴のもじぬあそびき
すく文徳実録云天安元年春正月
乙丑云云昔者上月之中必有此事時
謂之子日態云云上月云云ハ
正月の事也上正音通ず例易繫
辞下疏云云今のごとく小松を
ひくこと云云菅家文草云予亦嘗
聞于故老曰上陽子日野遊厭老其
事如何倚松根以摩腰習風霜之難
犯也云云玉葉きのこと童蒙
抄をもぢめ出抄云云ハ
るハ師の万葉攻證おいたれたら
ん云云

榮花物語殿上花見巻云子日ハ山
[illegible]

続古今賀 恵慶法師
[illegible]

夫木雑八崎
[illegible]

つゝみき

家
[illegible]

新後拾慶賀 家
[illegible]

伊勢 伊勢守藤原経盛女

家
[illegible]

こゝろね

家
[illegible]

[illegible]

土 河御寒
[illegible]

家
[illegible]

たゝみ松

拾春 家 金 忠見集 朗世
[illegible]

荆楚歳時記云正月七日為人日以七種菜為羹云云
大神宮儀式帳云正月七日新菜御羹作奉大神宮并荒祭宮供奉云云
万葉十八　家持
美之麻野爾可須美多奈比伎之可須我爾伎乃敷毛家布毛由伎波敷里都追
和名抄竹器類云四聲字苑云答管漢語抄云小籠也賀太夫

書紀神武紀云亦有尾而披磐石而出者天皇問之曰汝何人對曰臣是磐排別之子也此則吉野国樔部始祖也

わかな

赤人

万八 新古春上 新撰 家 朗廿 夫春一
春たゝハわかなつまんとしめし野にきのふもけふも雪ハふりつゝ
（あすよりハ万イ）

つらゆき

新古春上 家 金玉 朗廿
ゆきて見ぬ人もしのべと春の野のかたみにつめるわかなゝりけり

仁和のみかど　仁明帝皇子

古春上 新撰 新朗
きみがため春の野に出てわかなつむわが衣手に雪ハふりつゝ

同 貫之 新撰
かすがのゝわかなつみにや白妙の袖ふりはへて人のゆくらん

つらゆき

万十一 古来人丸集
川上にあらふわかなのながれても君があたりのせにこそよらめ

家
わか菜つむわれを人ゞ（とがむなり）…

万十 赤人集
くにすらがわかなつまんとしばの野のしばしば君をおもふ此比

祖也
應神紀云十九年冬十月戊戌幸吉野宮時国樔人來朝之中獻土毛云云
月令云孟春之月天子居青陽左介乘鸞路駕倉龍云云
文德實録云仁壽二年春二月甲戌幸豊樂院以覧青馬助陽氣也云云
あをうまハ二月まゐるを見のふくあり今とりあへ同書齊衡三年春正月辛未帝御南殿觀青馬云云これより以下うへ正月に引まゐるのうハ紫宸ま（に）くらしくらん」
和歌一字抄　顕季卿
ひかてゝまつの山べにあくがれてふゆなくようこそられめる

あをうま

家持

万廿
水とりの鴨のはいろのあをうまをけふみる人ハかぎりなしてふ
（といふ万）

なのゝもる　うね

家
そらさむくてまつ一はるハなるけりかの…

新古春上 貫之 家
こゝろざしふかきみ山べにかくれてあかしはるをまつ…

宗于

拾春 家 朗廿
まちもて（れ）…しらぬ花ざかり心のどけき人ハあらじな

つらゆき

家 代春下
宿の花ふきかぜ…ちるまでハあ…ありけり

そせい

古春下 家
いつまでか野べにこゝろのあくがれん花しちらずハ千世もへぬべし

新撰字鏡云忙怕急暴也肥ヶ呂毛上奈加留
伊勢物語云おろかなりけるこころ
土佐日記云九日こころもとなきこと
上巳禊祓の事後漢の郭虞より
宋書禮志ふ自魏以後但用三日不
漢武故傳云僊桃七顆大如鴨卵形
圓青色以呈王母王母以四顆與帝
帝曰欲植之母曰此桃三千年一
袖中抄巻三ふ三月三日曲水宴
成二年八月の承和四年ふ
家持の
されば八十年
の注ふ
巻一云高祖於臺上造清涼殿世宗
於海内作蓬萊山山上有僊人館上
有釣臺殿元作虹蜺閣乘虛來往至
於三月禊日季秋九辰帝駕龍舟鵠
首遊其上云云

詞春 葉春下 新朝

拾賀 同抄 亭是則 家 是則集 朝

家持宅宴三月三日

新古春下 新朝 袖 夫春五

家

新後拾春下 代春下 古本集 代集

古春下 寛 新撰 家

拾春貫之 新撰 金玉 朝

亭 新朝貫之 雲春下貫之

家 代夏 夫夏

紫平集

月令云孟夏之月天子始絺

家 いづくまで吹いあらんをそてこそとられ（おと家）ぬばたまるふなすうふき

いせ

古春下 花ちるるこのまふ〳〵いあられバ山ふきまもれらしぶ（ふ古）

ふるやぶ 豊前文房則男

家 ゆくすゑ有もこのもとのあれども（あれども家）

つゝぬき

大江もこのゝ

新撰 夫夏 ふるゑ物をとおぼつせきのはるのはやくるみられ（近江）

素性集 そゝぐすもあり

夏 う

擬家朝 花のちるるゝ袂のちるゝまバ衣のゝうきはるみこのれ

重之

源氏摘木柱巻

ゝゝふるちるゝちるゝ〳〵ふるのまゝ〳〵ゝ

本草和名云溲疏一名楊檀和名宇豆木和名抄同ド

和月

春ちるゝ物を留よまゝ（無ノ鳴ヲ留）那〳〵人のちゝ〳〵きやふぞ

はゝぬき

家 ちるるゝ和月ゝれバ掛葉の考抜のゝゝそ（いろまきう家）まゝ〳〵ゝれ

和の花

拾夏 山抄のかきゝ（沐拾集）ゝれ集 ゝゝ抄ゝ花ゝ抄の衣ゝ（ゝ集）

ゝつま

古本集 ゝゝ〳〵ゝ和の花のゝゝ

拾雑春重之 ゝゝのゝ（うきね拾）

重之集

夏 ゝ

家 ゝゝ〳〵ゝれゝ公妙のゝ（ナルイ）ゝ

四月ハ[illegible]の神[illegible]
月あれバやゞて神[illegible]る四月ハ[illegible]
あるゞ〜奥義抄云神祭るとて[illegible]
[illegible]つきてきねハ[illegible]げさせて[illegible]
きねとハ巫女[illegible]又物を[illegible]
奥[illegible]
拾遺神樂歌　つくゆき
[illegible]の山のさら[illegible]
[illegible]神の[illegible]

百十　赤人集　ゆ[illegible]
後夏　拾夏　[illegible]

[illegible]の集　あつきさハちとゝぬべ〜集
[illegible]の花ハさ月をまちこバ久〜しうなるべく
[illegible]根もたるゝ[illegible]の花

そせいはの

[illegible]の花ハ拾
[illegible]

家　[illegible]の藏
[illegible]十二
[illegible]神をいのるべ[illegible]

家
[illegible]

家　神[illegible]

五月

左馬允源攀男
[illegible]

古憲二家
[illegible]

能因歌枕云東宮[illegible]
古今雜下　[illegible]
[illegible]
[illegible]
頼基集云秋の夜ゆ[illegible]宮
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

和名抄塵土類云孫愼云泥土和名比知利古也和名比知利古一云古比千

夫夏　早苗[illegible]童　袖
[illegible]る袖
泥ヲカヌ
[illegible]童
新勅夏　[illegible]
[illegible]新万
[illegible]勅
[illegible]寛万

玉憲四　古本集
[illegible]
泥ヲカヌ
[illegible]玉集

後夏
[illegible]
[illegible]傳赤詳

新勅夏　家
[illegible]

家
[illegible]

五日

拾夏延喜御製　新撰　新朗
[illegible]

荊楚歳時記云五月五日此日競渡採雜藥
書紀推古紀云十九年夏五月藥獵於兎田野取雞鳴時集于藤原池上以會明乃往云云
万葉十七　家持
加吉都播多衣爾須里都氣麻須良雄乃服曾比獵須流月者伎爾家里
續紀聖武紀云天平十九年五月庚辰此日太上天皇詔曰昔者五日之節常用菖蒲為縵比來已停此事從今而後非菖蒲縵者勿入宮中
土佐日記
いつしかといぶせかりつるなにはがたあしこぎそけてみふねきにけり
古今戀三　よみしらず
風ふけば浪うつきしの松なれやねにあらはれてなきぬべらなり

つらゆき

大夏 家
子規あくるもしらであやめ草こゑすりよの声ぞありける
たがさともおやのまかりし菖蒲草ふりにけぬ人はあらじな

あやめぐさ

貫之集
さゝべなるみぎはもうらはやあやめぐさ袖さへひちて今やひくらん
同上
五月てふさつきにあへる菖蒲草うべも根ながく生初にけり
同上
あやめ草ねにあらはるゝ命つげばこそかゝるとしあれば人のひくらめ
續古夏 貫之
あやめ草をのくれて生る五月のあやめ草香をとめてや人のひくらん

みつね

五月雨の空なく日の菖蒲草ねにあらはれてなきぬべらなり
かくれぬの下におひてあやめ草根ごめにひきてくる人はなし

神祇令云凡六月十二月晦日大祓
東西文部上祓刀讀祓詞訖百官男
女聚集祓所中臣宣祓詞卜部為解

貫之

家
菖蒲草ねあかきこれば沢はれふきくるゝ声ぞきこえぬべらなり
寛 新
あやめ草いくよのさ月あひぬらんくるとしごとにわかくみゆらん

みな月

たゞみね

拾夏 忠岑 山城
大荒木の森の下草しげりあひて深くも夏のなりにけるかな
夏はなほいづこも涼しき山のべも野べもしげりあひつゝ

人丸　傳未詳

拾戀三 人丸集 古本赤人集 照日條重出
みな月のつちさへさけて照る日にも我袖ひめや妹にあはずて

つらゆき

家
夏ころもちきりひなく秋まではこの下風のやまずふかなん

なごしのはらへ

除

公事根源云六月大祓まつりの
家々は物をとゝのゆ
こなた方のあぐーのたくまる人ハ云
此うちをとゝのふるもぞやてへける
云〻

神樂弓立歌

きへくのけさの神あげよあつ人ハ
ふるをのいのちあくをきけ

拾賀

こゝ月のあぐーのたくへたる人ハふるきの命 みぐとこいのまり

貫之集

おほぬきの江のみぎーこゝよあぐれてるちきの夏ハなつ祓せん

伊勢集

伊勢

拾賀参議伊衡家

こゝてぎつ おもふこゝをとぞいのりつるやれ万代の神のまゝ

拾

夏三 家

此川 みるくへてあぐたきのたハはの花こぞたぐふぐたるる

新古夏 家

みそぎする 川のきこれば 夏衣ひもゆふぐれ波ぞ立ける

拾夏三 家

ふ こゝこゝてあぐる

水家

そこきこゝ 拾

此ののさやうるもたこふるこを神 ハきふ家 こゝん家

山城

こゝこゝ きみハおそ

古本こゝ集

おそ〻大めきるこのくたこゝるを神ハやすくも

いせ

契冲云此うたを新古今ハ八代女王とあるいこゝ〻そ〻ゆる説ん云
此のうたのたくぐよあ〻

万葉十一

王久世清河原身祓為斎命妹為

拾遺夏

長能

さぐへあぐあぐる神もおあぐ
りふハぐーのたくくありけり

元真集

ちよいう萩の末露のたまゝ
秋のさうひよいりやたくく

文選張景陽雜詩云金風扇素節丹
霞啓陰期云云李善注云西方為秋
云云

新撰万葉下左詩云衆節黄葉西初

夏三

年あるこ こをなげきふ ありめれぐこぐもよにうせどとぞ思ふ

夫 夫

八代王女 傳未詳

万四 夏三

きくよりたこの志ぐさ 根の元ゆ川よみそぎ

新古憲五

まく被 山城 小この川風よいのぐこるたぐ

夏三

たこ川 同雜六順 ぐきこよたくつ いそふ ひくこ 夫雜六 ぐこ

大和

むき夫

夏のたこて

朗家

永きあぐもきこてあ〻ぐる神ぐこもくふのあぐーの被とふ ハ家 とハ家

夕立條重出

夕こよるくいあそこぐちつ秋のさうひよ今やいくこん

夏三

あ ひ 稲 こ夫 の墨きくハ秋のこるこよあれ ハ家

同上

西へぐよ えのこるあ せば きるひつやぐて来き秋そこてもー

秋醍筆白露斎錦色 一
古今秋下　菅原ちおん
おもしろきときて木のはのうつろふは
あしこそ秋のちとめなりけれ
元輔集
草の葉に結びしをぎは穂に出でば
露なる人や あきをしるらむ

凡河躬恒
古夏 新朗 古本集
夏と秋とゆきかふ空のかよひぢはかたへすずしき風やふくらん 八古集

秋たつ日

藤原敏行 富士麻呂男
同秋上 新万 新撰 家朗冊
秋きぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる け万

つらゆき
同秋上 家 新撰
河風のすずしくもあるかうちよする浪とともにや秋はたつらん

同上 よみ人しらず 新撰 口傳
きのふこそ早苗とりしかいつのまに稲葉そよぎて秋風のふく そよぎて 古 ぞ

後秋上 よみ人しらず 新万 新朗
ふきぬるも風の涼しくなりゆくか秋立つとしもいはで見ゆらむ めく後 ふきぬる万

新秋

あき秋の空もきよらに衣うつ袖ふる雪も秋のけしき 裁ヲカヱ

古秋上 よみ人しらず 新撰 古本集 家持集 第五重出
我せこが衣のすそを吹きかへしうらめづらしき秋のはつ風
夫秋一又雑十三里 ちぎりもこれ 新
あづまぢのいさゝむら里ハ初秋の七夕まちて稲葉そよぐ 夫雑 美濃
順集 夫秋一字 八集
木枯の秋の初風吹きぬるをなどか雲ゐにのりおくらせぬ 小集夫 や字 おと集
木がらしすまでハ冬ふのとよめと
あきのつむをそよめ秋はよむるも後
順集
こがやどのつき田もいまだかくあく不
まづさきふきめる木がらしの風
曾丹集
木枯の秋とたちけしその日より
いかなるべきもみぢは日であきらか」
荊楚歳時記云七月七日為牽牛織
女聚會之夜

七日の夜

凡秋上 伊勢
伊勢集
ちぎりけむ心ぞつらき七夕の年にひとたびあふはあふかは そそイ 秋凡

人まろ

万十 雲秋上 よみ人しらず
赤人集 隠万
天の川水かげ草の秋風になびくをみれば時はきにけり あきはきたるらし ふく集

ふかやぶ

拾遺雑秋
たなばたのあかぬわかれもゆゝしきを
けふしもなどか君がきませる

平兼盛

拾遺二 よみ人しらず
こひこひてあふよはこよひあまの川きりたちわたりあけずもあらなん

人麿

万十 後秋上 よみ人しらず 拾秋人丸
朗家
あまの川よそにのみあふ君がためまてはすべなき年の渡りを ハあまれ万後家 と家 つ朗

古本人丸集
天の川おハふけまつ さめるまゝ
とゝのまれゝふたゝび一ねの〻」
万葉一
紫草能爾保敝類妹乎爾久苦有者
人嬬故爾吾戀目八方」
宇津保物語菊之宴
いさやたゝあゝるのにようあん家
うちゝゝひきいて和琴の柱ハ
いりゝぞよめゝゝ

此うゝ諸本ゝゝ異風とありさを
新朗よのゝ友別とあるハ誤ある
多ゝ

棚機の年ゝてゝびあふこゝ瑯邪代
醉ゝ述異記をひきてゝゝ
事ゝゝれバ暑ゝ

色下
玉もせんかゝよあふ色ハ色
万十 後秋上 たまゝゝ拾ぬ物ゝきぬるよゝ
万十 奥 ほのゝひゝいろゝのゝ
古秋上 天の河おゝ業を
万十 玉臺 夫雑七妻 ゝゝ拾ぬ
万十五拾秋 袋 ゝゝみて
古本人丸集 あい古

おき風

古秋上 寛 新万 家 ゝゝき棚ゝの年ゝてゝびあふこゝ
新撰 卅 新朗

ひゝまゝ

万十 力万 ゝゝ何ゝての川ゝをあつゝてゝゝ

素性

後撰秋上 閑院
あふこゝふたゝあゝてあゝおゝくて
たちあふこゝさハあゝゝゝあけて

古秋上 新撰 家 ゝゝあハゝ棚機の久ゝきほゝゝあゝもゝそすれ
人まゝ

万十 赤人集 童 ゝゝ果ゝけりゝみ出ゝん
万十 拾雜秋人丸 家 赤人集 ゝゝてゝふゝゝびきゝて

みゝ秋

古秋上 寛 新万 家朗 ゝゝゝゝれど棚ゝゝの年ゝ

いせ

家 ゝゝ出てひゝゝん家 ゝゝゝとゝゝゝ

男ゝ

拾秋 新撰 家 家持集 ゝゝの川ゝの波ゝ立ゝゝ
家 童 ゝゝゝ拾新家持 ゝゝ家童 ゝゝ

出てひろゝんゝゝゝゝゝゝ
新後拾集ゝ七夕の日
ゝゝ出てひゝゝん
たゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
あゝ江家次第ゝ巧奠の奠物の中
ゝ和琴ゝゝゝゝゝゝゝ
弦ハ奠物の和琴の弦をゝゝ」
古人ゝゝ雲の橋ゝゝ淮南子を
ひけゝゝ今ゝゝゝゝ雨雅翼釋

烏云鵲者烏之屬故周礼總謂之烏
中畧 秋七日首無故皆髡相傳以為
是日河鼓與織女會於漢東役烏鵲
為梁以渡故毛皆脱去とミえたり」
よむ。ものゝあく奥儀抄工本等ニハ
そらにかくるはしとありそれハあやまりと
おもふもの、たゞちにからまつりんと
すみなれたる云。されど躬恒集ニ
かさゝぎのなくらむさみあれど夜のふけ
ゆくまゝにくれたるかちの橋して
とあるをみれバ。それハたのむたくらく
かさゝぎとぞいふとも。しかれバ家持
集にもかさゝぎのあしとあるてる哥
のこゝよくかなへり

狹衣二
うつのにあさせまた渡たどるらび
そらぬ中とあらみもの哉

とものり 紀有朋男

後秋上 家 家持集
てる月ハ天の河原もあせなんよずむかもあくたびらうあめ

つらゆき

ひとゝせに一夜ぞかりと棚機のいつくあふらん名をちぎるらん

拾秋 家朗
一年にひとよとおもへどたなばたのあひみる秋のかぎりなきかな

新古秋上 家
たなばたハ今やわかるゝ天河川ぎりたちて千鳥なくなり

家
夕月夜久しからぬをあまの川はやく棚機こぎかへらなん

家
はかりぬる宿あれど漢河きりがくれゆく夜ぞすくなき

新千秋二 家持 家持集
銀河ちかひのかひハたえぬとも人をわすれず思はざらなむ

以上貫之エ

友則

古秋上 家 古本家持集 兼輔集
あまの河あさせしら浪たどりつゝわたりはてねバあけぞしにける

赤人集
つきくさにてらす妹まあへる夜ハ
このあぬる月のつきせざるらも」
兼輔集
まぬ人をまつ秋風の独ざめにハ
られさへあやなたびごゝちする

万葉八
朝扉開而物念時爾白露乃置有秋
芽子所見喚鶏本名
文忌寸馬養

同よるべしげ
久方のあまの河原渡しもる君わたりなばかぢかくしてよ

みつね

凡秋上 家 夫秋七 八本
あふさかのちぎりやなさんかくらの天の河霧立のぼるべく

拾秋 家
ひこぼしの妻まつよひの秋風に我さへあやなく人ぞこひしき

ゆげのよき 此御名誤まり万葉を正しとすべし

万八 湯原王 拾秋
ひこぼしの思ひますらん事よりも見るわれくるし夜のふけゆけバ

あしゆ

貫之

後秋上 拾雑秋 家
契りけん心ぞつらき棚機の年にひとたびあふはあふかは

これね

古秋上 忠峯 忠峯集
いつはりハ久しからんとしのきのふをいつしかとのみ待わたるべき

かねすけ 藤原利基男

万葉八
九月之其始鴈乃使爾毛念心者可聞來奴鴨　櫻井王
鴈のつかひ鴈の玉章なとよむハ蘇武が故事にてその事ハ漢書の本傳にみえたり

本朝文粹巻八紀納言詩序云八月十五夜者天至淨月至明之時也故古之玩月多在此霄云云
白氏文集に華陽觀中八月十五日夜招友翫月律詩あり唐土にても十五夜を賞することハ此比よりのことゝ見えたり

後秋上　古本集
なかぞらの〔くもる〕あしたまれてのはのもこのよハぬゆくさきなん　古本
八月
とものり
古秋上　寛　新万　朗卅　家
秋風にはつかりがねぞひゞくなる　きこゆ　古家卅　誰玉章をかけて來つらん
万八　三原王
志ら露ハうつしなりける水鳥の青羽　あを万　の山の色付てみれ　あきのつゆハうつしにありけり万
み川孫
人しれぬおもひやなぞとあしがきのまぢかけれども庭のあなせぬ
十五夜
貫之
家
ひさかたのあまつ空より影見れバよくところなき秋の夜の月
同　夫木四
難波がたしほみちくれバ山の端に出る月さへみちにけるかな
同　公忠集
月ごとにあふ秋なれどこよひをぞ　る月あまた見し公　見しかど家工　へつゝこよひぞ増る　ヌ公家　京あこりれ里
そせいほうし

延喜左馬寮式云九年貢御馬者信濃国八十疋〈諸牧六十疋 月牧二十疋〉望云云
信濃地名考云望月の牧ハ佐久郡にて今須加間の東となふ
延喜左馬寮式云諸牧駒者毎年九月十日国司與牧監若別當人等臨牧撿印共署其帳簡繋齒四歳已上可堪用者調良明年八月附牧監等貢上云云
匠
ミづの法牧とあるハ誤なり家集夫木にへミとあるに基ゆふべし　へミの法牧ハ甲斐なり

後雜二　拾雜上　家　やま家
望月の駒よりおそく出ぬれバ　駒ヲカヌ　たどる〳〵ぞ山はこえつる　け拾
み川孫　或本
ちかまごにあかぬ月を山の端にさとの里人おそしとや待
躬恒
拾秋　家　こ拾家
いつくまもあひの月はてしなく何ぬは人のゝなりけり
駒ひき
つらゆき
同　家　金玉卅
逢坂の関の清水に影見えて今やひくらん望月の駒
信濃
家　大雜四牧
都までなつけてひくはをがさはらへみ　へミ家夫　の御牧の駒にやあるらん　ぞあるらし家夫
武蔵
あふ坂にひくらん駒も秋霧のたちかくすとも我はまつかな　てまへぎ集
伊勢集
望月の駒ひきとむる山こえれバおぼつかなくもあはざりける　ととろ集
藤原たかとを　参議齊敏男

袋草子巻三云良暹於或所語云一日江州ヨリ上洛之間於會坂時雨ニ逢テ石門ニ立入テカシコリヌレズトスヽ而懐圓同云関石門ニハ何様ニ被立入哉ト侍ルニ云々懐圓咲而其ハ石ノ廉ニテ侍不知給ルニ不便ヽヽ良暹閉口

真淵云駒引のうたを見にまゐりたるにそあなれ貫之のもよけれどもこのまさにハしるし公任ひとやらん要之のまされるといひたなる少し古言をおもはれざりけり

続古今雑上　天暦御歌

月ごとにみる月なれどこの月のこよひの月にゝる月ぞなき

延喜式部式云九月九日菊花宴應召文人云々

續齊諧記云汝南桓景隨費長房遊学累年長房謂曰九月九日汝家當有災厄中略登高飲菊花酒此禍可除

信濃

拾秋 金三 後六

逢坂の関の岩かどふみならし山立いづるきりはらの駒

或本 たゞふさ　藤原是嗣男

順集

なほざりにいそぎまつらん逢坂のあまた駒もひきつれ　これよまぬ集

後秋下

秋霧のたちのの駒をひく時は心にのりて人ぞ恋しき　きみ 後

これのり　坂上好蔭男

なかの月

古秋下 家 第六重出

さほ山のはゝその色はうすけれど秋はふかくもなりにけるかな

万十 家持集 古本人丸集

月をよみ月はみれどもしら露のおきて見る人ぞひさしかりける

万十 家持集 古本人丸集

長月のしぐれの雨にぬれとほり春日の山は色づきにけり　大和 持 そぼちつゝ ちる人

万十

なが月の志ぐれの雨の山ぎりていぶせきつらむ君がなきまに　の万 のいぶせき万 とゞめやまん万

九る

童

九月の九日ごとに菊ふみやて氏人は年どもにてふきく　とし 童

一云 臣

うらしきの八十氏人とつゞけゝるを見よりなハ勅撰哥仙哥集等ニもかつて見えぬことハものゝふの八十氏人八十氏川などつゞくるを見て誤れるなるべし」

忠見集

よろづよも人のつむなる菊のうへにますみのひかげてあかしをまつらめ」

古今雑体　壬生忠岑

くれ竹のよゝのふるごとなかりせばいかほの沼のいかにしておもふこゝろをのべまし云々菊のよはひをのぶといふことは第二帖やどの條にいへり」

拾遺賀　小野宮太政大臣

よろづ代にかはらぬ花の色なればいづれの秋かきくはなからん」

此うたを本文ハまへの歌とせをともにうちみだれていにしへ誤まりて是非工本桂閣本等にうつりてあやしめ出きり

拾秋 新朝

長月の九日ごとにつむ菊の花もかひなく老いにけるかな　の拾

法皇　是誤也拾遺ニよみ人しらずとあるをあるべき

いせ

後秋下 家

かぎりなき君がよはひをのべつゝもなるべき花のにほひをぞおもふ　ホ　後 家

新古賀 家

いのりつゝ秋をまつの菊の花いはふ人の秋からなにおる心をぞつむ

貫之

家

玉まを人のよはむ菊の花いはぬ身の秋ぞかぎりなき

蔵工桂

めでたく花とすゞろに人の世をしらむ菊のかひのかをもてなす

河 常本

菊の花ておくつゆのいざしらんぬ袖の花をぞかゝる　とゞめて 工

貫之集

うきものの花をもちてそ菊をいは君やそでふる　さる集

忠岑

一之十三

新撰万葉下女郎花歌
女倍芝秋在名緒哉立沼濕置白露
緒潤衣丹脂手

家 夫秋五菊 貫之集 [illegible]

[illegible]

家 [illegible]

[illegible]

秋のよる

おきうぜ

古秋下 家 [illegible]

[illegible]

ひくまうて

玉冬 代冬 古歌集 [illegible]

[illegible]

後秋下 貫之 [illegible]

[illegible]

貫之集 [illegible]

[illegible]

續後秋下 貫之 代秋下 貫之集 [illegible]

[illegible]

以上三首

つゆあき

古今秋下 素性

[illegible]

[illegible]

万葉八 三野連石守
引挙而折者可落梅花袖用古寸入
津湍者雖濡

貫之集
[illegible]

古秋下 [illegible]

[illegible]

後秋下 [illegible]

[illegible]

以上 二首

[illegible]

頼基集 [illegible]

[illegible]

素性

古秋下 家 [illegible]

[illegible]

續後秋下 [illegible]

[illegible]

つゆあき

古秋下 朗 [illegible]

[illegible]

加 [illegible]

八 [illegible]

ふきとれば　ちりもしぬべし　をみなへし
いろあさきもの　おもひなるらん

契沖云此條ハ神楽のうたとなるべし
かぐらハ冬をむかへとすれば　かぐらの
玉勝間巻十云神楽ハ冬ハ神
あそびとぞいへるされば　その

後冬　詞貫之
神なづき　ありしかぬ　ふるまき時雨　その始なりけり

かぐら月　愛之

後冬　ふ後
ちはやぶる　神なづきの　やもすがら　ふるまくらなる　ちるもみぢかな

同
ちはやぶる　神なづきの　月なれば　ちりしぬるかな　ちるもみぢかな

吉冬　家特集ハ
立田山　錦おりかけ　時雨　ちるもみぢかな　新撰　古新

雪　月

古詩諧　第五重出
さのらなる　人まねさの　雪ぞ　ちりかひくもる　古

後冬　拾冬　金玉　第三重出
雪のうへに　月ぞ　あてはめ　ちりかひくもる　雪や　金玉

同
ちりかひくもる　雪ぞ　みるれば　梢ぬ　寛　新万

かぐら

勅古神祇　家
伊勢　をのよりの　ちはやぶる　神なづきの　月　ちりかひくもる

雪　之

家
ちはやぶる　神なづきの　月　ちりかひくもる　伊勢川波　ちるくあそぶ　ある家

拾神楽　家
足引の　山の　榊の　葉　拾　ときそ　ある　さらなる　神の　きねも　拾

家
榊葉の　ときそ　家ナシ　あまぎ　おがけく　ふ家　たまて　神の　きねも　ふ家

家　夫冬三
ちはやぶる　神なづきの　月　ちるもみぢ　家夫　ちるもみぢ　ある家

新古神祇　家　第五重出
山人の　ちるもみぢ　ゆふだすき　かけて　ちるもみぢ　も家

新古　家
山人の　ちるもみぢ　ゆふだすき　かけて　ちるもみぢ　新古　家

以上　六首

貫之

古大歌所　神
ちはやぶる　神なづきの　月　ちりかひくもる　古

神　拾神楽
さらなる　ちはやぶる　神なづきの　月　ちりかひくもる　拾イ　ちはやぶる　神拾　神の　ちはやぶる　神　ちはやぶる　神　ちはやぶる　神

以上五首　貫之　或本

いせ

家　中務集

[illegible]

志[illegible]

万八紀少鹿女郎

[illegible]

古冬　金玉　朗世家

[illegible]

大和

後冬　[illegible]　伊勢集

[illegible]

古冬　[illegible]

[illegible]

万二十

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宇津保藏開下云ゆきのひとゝ菊

いとたゝいろめきうつろひてあさぎけふいろめ

後冬三歳暮

月のあきはあまうよりのこるばれば

古冬貫之 新撰朗

みつ

みつ

古春下 家

月のいるごとくもおもるこの郡

同冬 寛 新方 宗子集

ゆく寛 新方

月のこそつひよりもぎぬ

家

家

家

新勅憲盃御形宣旨

大宮ゝ　ゝ　ゝ　

家 たごのむまびくるまーき梅を見るそ人目とやさくいまさもあん　家

古雑上 日の光をやぶとやわばいそのくーふるまもつ花ゆゑ　大和

ふるのいまくもち　傳未詳

後春下 ゆくるもみぢるべき事をあれば後ひろまる人のたのざめやも

新續古意中清慎公 日ぬ[illegible]あひてうむ新家の消ぬ先をもみまてーぶ

万十六 夫雑上二星 やふつくる日さすやをとぶつくるやおるちをとーを先でよーくる　万夫

家 年も市も見ひーあれば出る日を明るくふたなのむべくもれ　家

とぶおるふるんるんふいる日をとて出てやのちやや

書の月

赤人集 夕[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

古今春下　つゝみ

[illegible]

後撰冬　よしみね

[illegible]

万代秋上　実方朝臣

[illegible]

古今秋下　よしみね

[illegible]

拾雜貫之家　[illegible]

[illegible]

同窓三人会　[illegible]

[illegible]

玉葉二　代窓二　躬恒集

[illegible]

夫夏三月雨　[illegible]

秋の月

古秋上　よしみね　新撰　小町集

[illegible]

後秋中　貫之

[illegible]

後秋下　貫之

[illegible]

拾雜上　貫之　家

[illegible]

家

[illegible]

以上五首

要之

躬恒集ち　出云云延喜十九年九月十三夜そのえんせきせめうそのかの題あり人々をまねきてありてぶくみつゝの弱あるをいうで拾遺おもしろ人ちゝまゝ出されんおぼつかなー

真淵云十三夜のうたこれをもてもじめ〻すべー

堀河院百首　紀伊

久かたの月もいとふたぐもれとぞ

[illegible]

公忠集

[illegible]

真淵云うげさへとあふよろべー

[illegible]

拾雜秋　躬恒集

[illegible]

古秋上　新撰　朗

[illegible]

こつ秋

大江ちさと　[illegible]

古秋上　後六

[illegible]

伊勢

家

[illegible]

同

[illegible]

同

[illegible]

重之集

[illegible]

初学記引虞喜安天論云俗傳月中桂長二百五十丈月輪有之下有河此木秋花開云云

まゝ酉陽雜俎巻一にる月中桂あるよ一をいて童蒙抄ふ樓炭經抄引るハ附會あるべし

同

秋の海の月乃光あらそふれバくゝぶの山も紅めぐる那須

山城

ふこの浦

後秋中

秋の月光よかくてる物あらバやこゝ那須ふるゝ後まぢらざ

同

あきふぶ海ゝうつまる月を立ゝて波よ何ゝ〻ど色ハのそゝ

も後

同

秋の拍子月の光もなりきれど人のこゝろのうちハてゝさぞ

くま後

紀のよしつねあそ

もちヒ

同

ゝとゝ秋やよ年ん久ゝの月の桂ハいくもこのそゝ

ゝく後

ひく後

つきこのつき入ゝてゝつきゝ月の大和

ゝ〻ゝ〻ゝ〻

大和物語ものとぞすてふと名づけし
ゆゑ〳〵しくふるへる雑賀
藏經葉老國綾第四ものゝえらるる
をうらのくまのまゝあり〳〵てつゝ
たゝかん」
朗詠云秋水漂來船去速夜雲収盡
月行遲

拾雑上 貫之 家
思ふらのあくにあれは久方の月をまちてあれば袖にもれぬる家
王秋下 家
このもかもたのびるともゝぬよりは月新そはけうきまる
古雑上 新撰 家
かつゝゝみてどうとくもみゝれ月新のいとぬすはあゝと思へ
代雑三 家 大枕四
久方の月のげゝれば雑俗宿もてるくぞゝゝぬべゝある
上 奥
新まてゝひの端よりそ月あれど波より出て沒るゝそいい新

以上五首

奥 ゝ

奥義抄盗古歌證歌條ハ後撰と
あり今の本ハ此ゝゝゝえす

靖玲日記云つゝめてゝふめゝ物
どもとりどゝきのよれまゝゝ
アハ月のゝれかゝぶあどあゝ

業平 彈正尹阿保親王男

同 伊 新撰 家
ひのかくるゝゝふのゝゝ迎て入ぬるかゝ
いまゝゝふゝまゝ久方の月は出のまゝゝうする

みつね

後雑一 家
ひゝるゝやゝぞまゝひめる月影をゝるゝやいゝんかひゝやいゝん

伊勢

古意五 後雑四 家
あひよふふまて物思ふ時の月影神よやどる月さんめゝゝ新影ゝふ

ふかやぶ

新古秋上 句
いつとまゝ月ひの月はゝるべきをゝゝのふハ名をやゝのゝん

山城

新句

ゝん 祢

同 雑上 家
浜路ゝて月あゝと空ゝみ月の色きゝふいハふゝゝか光ゝ

要 ゝ

家
照月をひるゝとゝれば曉よりねゝのゝきぎもゝのゝじゝぞ思ふ

おとまゝ

此名誤まて万葉を正しとす

万七作者示詳 古本人丸集
まゝ月影をゝてゝる月影を心妙のゝゝのゝのゝきるあまつ雲路のも

万家

万葉廿
和我夜度爾佐家流奈呂之故府比
波勞年由米波奈知流奈伊也乎知

百廿 續後雜中 [illegible]
山の端よいざよふ月をいでんと待つ[illegible]

同六 [illegible]
[illegible]

古雜上 人麿集 新撰 第二重出
おそく出る月もみるふる雲の山よりあなたもとむべくん

久方のあまてる月球[illegible]

古雜二 業平 伊 家
[illegible]

万四 河内百枝女
[illegible]

同七 玉秋下 吉本人丸集
[illegible]

同三 又九 沙弥女王 後九集
[illegible]
大和

同六 湯原王
天[illegible]月後男[illegible]

[illegible]

万葉十一
[illegible]高山出來水石觸破衣念妹不相
夕者
[illegible]
[illegible]
宇津保物の[illegible]巻[illegible]二月廿
日[illegible]
[illegible]
[illegible]
十九日[illegible]八雲御抄[illegible]
[illegible]

後雜三 上野峯雄 伊
[illegible]
[illegible]
万十一 雲條重出
[illegible]

同四 安部蟻娘子
[illegible]

或本 いまと
かんつけのみるめ 後撰を正
[illegible]

安郡蟻娘女 万葉を正
[illegible]

同六 夫雜二山 大和
あまのゐれ[illegible]の山を[illegible]月の出こぬ[illegible]
色甲三
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

傳ホ詳
[illegible]

三日月

坂上らうめ

後古今云こまの坂上是則
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
十九日あるべきなり」
書紀仲哀紀云八年秋九月乙亥朔
金盛国而有寶国譬如美女之睫有
向津国 睫此云[illegible]麻

万六
月[illegible]たぐ言月のまゆねきけあぐ遠[illegible]の万[illegible]の万[illegible]らんイ
[illegible]

赤人

同
[illegible]さけて万
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あづまの此後ものの集なれば第五帖人もまつの傳を生てのゝ
ゝしハ新古今ニ出

家 出てまぬ山もうゝぬ七月の影をこそまて

万十 人丸集 家持集 白雲をあなたに持てゆる人なご月よりの明のつきよこれぞあらぬも

同 おぐれふる時雨月をひとぎきとうゝとそこまでものを

同十 ゆふやみ

味 ごめはくまくかくなる夕雪の木のもがくれの月はうゝぶて

後慈五 ゆふやみ雲もうゝぬ山なれば大

大宅姫女 傳未詳

万四 新勅慈四 夕ゆふやみ道たどゝしく月まちく加へまこゝぜこそまるもん

伊勢集 されば新伊

代雑二 夫雑一 忠峯 袖 日くれぬ山のそこよりいづる夕つゝれ初ぬ夫

ゝとう五ゝ命ゝ雲の裏あれや人よまゝまでゝ月のへめきバ

真淵云あハ俗字まて四阿をいづ
すやとふふせやとハいふ也ふ
せやを抜まてふくべくもあゝ
和名抄居宅類云唐令云宮殿皆四
阿和名阿豆萬夜
予ゝ按本よあづまやのまやとあるを
正しとおもゝ催馬樂よ
あづまやのまやの板ぶきの雨そゝぎ
ぶれさちぬれぬその戸ひらせ
古今俳諧 きのあくとも
ほゝゝまくかゝいふ子あくみゝ
人まつまゝまくまひうゝすれ

東屋のふせや抜目のあまぬよりゝ不逢ヲカヌ 欲ヲカヌ

月影に業ぐふまゝ星のなぬ山よ出てゝゝ

大雑一 ゝゝひぐらふたちも出ぬ夕つゝれ月あき夜の光と思ゝも

万十 ゆふつゝもかよふ夜の赤ぢまで万夫 赤人集 夫雑一 人丸

君まゝこのハまくほの夕されば欲ヲカヌ ふみもある我ゝろ

春の風

ゝる風の吹ゝあゝよう陸ハせの沖まけて花ぞちりける

吉春下 家 花のゝこハ中ゝよりあてみきぶともかをぶるめ手あ主の山風

大納言 安世男

左近衛少將 滋實男 春ふのよゝ風

同 古来風集 ふゝ口 ゝゝ花のあゝよのきてふけいづゝやうろうとゝん

後撰春下 つゝゆき

風をぞまちてぞ花のちりあまし

ゝろづゝやうろうふづうゝ

拾春 家 吹風をいとはしもせじ拾家 梅はなちりぬる時ぞ多くまさりける

躬恒

春下 寛 新 古 このもかのもかすみのやまべ古寛新 はるかぜ

第五重出 春ハまづ東ゆくようぐいすの花もさきてつぐるなりけり五 春の風

古春上 寛 新万 新撰 家 新朗 第六重出 さくらの春はかぜのたよりにふるあめにてぞ覚えさそふ春の風

友則

同上 家 花ちるかぜのやどりをば春のあるじとしらでぞ来ける

拾 春 家 春ハ東ゆくようぐいすの花のあるじとしらでぞ来ける

貫之

カ十七 家持 大雑 風 あやめぐさ引かぬ人にも見せもせじ春の風ふくかぎりなりけり

文集春生詩云先遣和風報消息 教帝鳥説來由

拾雑春 家 春ハ東ゆくようぐいすの花のあるじとしらでぞ来ける

貫之

続後撰 春下 家 春ハ東ゆくようぐいすの花のあるじとしらでぞ来ける

後春上 家 春ハ東ゆくようぐいすの花のあるじとしらでぞ来ける

新万 春ハ東ゆくようぐいすの花のあるじとしらでぞ来ける

伊勢

家 おいの風家 春ハ東ゆくようぐいすの花のあるじとしらでぞ来ける

一も家 春ハ東ゆくようぐいすの花のあるじとしらでぞ来ける

続古雑上 代春下 春ハ東ゆくようぐいすの花のあるじとしらでぞ来ける

雲春中 家 春ハ東ゆくようぐいすの花のあるじとしらでぞ来ける

ふくらん 続雲 春ハ東ゆくようぐいすの花のあるじとしらでぞ来ける

夏の風

拾夏 家 すゞ拾 夏ハまづ西ゆくれどなつの風ハ立ちかへりてぞ吹くなる

貫 新万 大雑 風 夏ハまづ西ゆくれどなつの風ハ立ちかへりてぞ吹くなる

第五重出 夏ハまづ西ゆくれどなつの風ハ立ちかへりてぞ吹くなる

同 同 寛 新 夏ハまづ西ゆくれどなつの風ハ立ちかへりてぞ吹くなる

おもいん 寛 新 おもふくハ五 夏ハまづ西ゆくれどなつの風ハ立ちかへりてぞ吹くなる

新撰字鏡云賦又貨也止金戸

万葉十五 伊敝豆刀爾可比乎比里布等於伎敝欲里與世久流奈美爾許呂毛豆奴礼奴

拾 夏 家 夏ハまづ西ゆくれどなつの風ハ立ちかへりてぞ吹くなる

貫 新万 夏ハまづ西ゆくれどなつの風ハ立ちかへりてぞ吹くなる

第五重出 夏ハまづ西ゆくれどなつの風ハ立ちかへりてぞ吹くなる

同 同 寛 新 夏ハまづ西ゆくれどなつの風ハ立ちかへりてぞ吹くなる

おもいん 寛 新 おもふくハ五 夏ハまづ西ゆくれどなつの風ハ立ちかへりてぞ吹くなる

拾 夏 家 夏ハまづ西ゆくれどなつの風ハ立ちかへりてぞ吹くなる

貫 新万 夏ハまづ西ゆくれどなつの風ハ立ちかへりてぞ吹くなる

第五重出 夏ハまづ西ゆくれどなつの風ハ立ちかへりてぞ吹くなる

同 同 寛 新 夏ハまづ西ゆくれどなつの風ハ立ちかへりてぞ吹くなる

おもいん 寛 新 おもふくハ五 夏ハまづ西ゆくれどなつの風ハ立ちかへりてぞ吹くなる

新撰万葉上秋
松之聲緒風之調冊仕手者龍田姫
子曽秋者彈良哉　左詩云
翠嶺松聲似雅琴秋風和處聽微音
夫木夏三蟬
さのゝゝそ　ひ　川　と　人　ハ　い　も　め
ゝ　べ　て　も　ゝ　く　桜　の　ち　る　ら　ん
契冲云此ハ　ち　る　ら　ん　ハ　夏　ち
雜く例のようぞ　れ　ち　る　べ
新撰万葉下夏
夏之夜之松聲年曽与冊吹風者五
十人連歌兩之音冊殊成

万葉八
吾屋戸乃草花上之白露乎不令消
而玉爾貫物爾毛我　大伴家持
同二長歌　人九
時風雲居爾吹爾奥見者跡位浪立

寛　新万　新拾夏　ひ　き　う　よ　く　る　松　風　を　勢拾
大夏三蟬　ひ　く　ん　ぶ　ま　つ　ぐ　て　も　ふ　る　桜　の　ち　る　れ　八寛
ち　ゝ　ゆ　き
拾雜上　家　第三重出
る　ち　と　ゝ　ま　松　風　ハ　き　こ　ゆ　ど　池　の　汀　の　ま　さ　こ　ぎ　う　け
ま　ち　ど　く
家
ち　る　ち　き　ち　の　ち　ま　風　ま　ゝ　く　れ　ど　な　の　う　ち　ま　ど　く　れ　ま　で　み　ち　る
秋の風
百　類聚　又八
き　ま　ち　ま　ち　ま　ち

世くに拾遺ゝ[illegible]とあるハ誤なるべし

古賀 拾雜秋 [illegible]
類聚 [illegible]集 [illegible]集

[illegible]の松を秋風ふくるに夢ちらすなるおきつ白波

やすひら

後撰上 家大

秋をそなる風ハたちくるもしらてこそ[illegible]ハ

ちさと

同 旬 [illegible]後

[illegible]ほとをるもあき物をなに秋風のまぶたふくらん

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

きのよしもち

拾遺秋 大中臣能宣

もゝぢぶねこきハのふるまつもしらハ

おのれあきてや秋をしるらん

古秋下 拾秋能宣 新撰 小町集

第三重出

[illegible]

後撰上 [illegible]

同 憲五 家

秋風をみてもふるあくふ人のらの[illegible]

後撰上 [illegible]

[illegible]人ハ[illegible]

後撰上 [illegible]

[illegible]秋風ハけ[illegible]

[illegible]

万葉四

戀々而相有時谷愛寸事盡手四長常恐者

大伴坂上郎女

万十 [illegible]

家持集 古木人丸集

[illegible]

[illegible]秋風の[illegible]

[illegible]

[illegible]

何〳〵

山里よ[山城]さ[ぞ]ーはよう[ぞ]ふ[ぞ]ん[ぞ]ま[ぞ]ー[ぞ]ー[ぞ]ー

万葉ふ吾共所沾者をワレヽヌレヽヌナ
とよめるハ〻ろ〻〻者ハ名の誤ラて
ワレサヘヌレナとよむべ〻〻

宇津保菊之宴下云ひぢらさるふり
かゝりいゝめきて云〻

枕草紙云名おそろ〻しきものひぢ
らさはめ

袖中抄巻一云此ら〻ハ万葉をやと
らげさるゝ歟三のわひさゝをいぢ
かさゝまさるゝひぢらさるゝとよめ
不ゝのあゝゝ云〻

万葉十一
笠無登人兩者言手雨乍見留之君
我容儀之所念

万十 赤人集 みこころもハるくるらめや万
夫春三ゝ人〻ば 同 家持集 もゝ赤 ひと夫
いまさゝふ男ハたゆきて主の心を人のまゝさゝ聞くに
同 家持集 いゆゝし万 よもと持
つゝぎもこゞあゝもみまゝ
もゝまのこゝを人
同十 赤人集 水万
こゝせゝもやまひてすべあゝ主の君を人
同十一 催 て催
いもゝ門ゆきるとねつひちらさつるもふゝ
同 ちんあまこゞくきぜん
うきやゞうぜん催
あゝたきゝよゝもつけみまゝ
同十 くほり万 ぞ万
ゆゝほるべく面ハあゝて面姉よゞかゝゝの
ゝひをゝ
同十 王憲四人丸 家集
秋さぎゝよおゝゝなゞめけふるゝゝ
ちゝけ万家 ゝき家
同四
久ゝの面もふゝぬゝのまづみるよたゞひてこのはくゝさん

赤人

同十 赤人集
主の面ふゝゝゝものを立ゝれ姉ゞ面ふ見るゝ主ゝ

千載春上 和泉式部
つゝゝとふゝ主ふの面ゝを
ゝゝのもおとゝ人のゝるゝん

袖中抄巻十九云さゝゝぶりハくゝ
がるゝとふるゝゝさハ刃のゝ主めゝ或ゝ
さゝゝゝの猪とふ歟道命ハ関梨の
らゝふふ
ゝゝゝもめれ花のさゝふふいきゝゝゝ
さゝゝゝぶりとや人のおゝゝん
猪をかゝるとらふゝもゝ主ゝゝ

後撰春上 友則
ゝゝのやまにあやふきゝぶる主風や

久ゝの面ゝめれゝを面のまつといづゝのゝゝゝよゝゝも
新古春上よゝゝば
ふゝておゝもひおきてゝゞゞむる主面ふ花の下ひもいゝとゝゝ主
とゝゆゝ

後春下 新勅 あゞれ 後新
主ゝ面ふ花の猪ゝゝゝ主ゝゝゝめれめゝるゝ面ふゞく
こゝゝゝ 後朗

蕪ふ

古憲三 新撰 伊家 第五重出
おゝゝゝゝゞ猪ゝゝゝゝゞ主を吹ゝゝ主の猪ゝゝゝゝゝゝゝ
同 伊家 古今集 第四重出
つゝゝゝのゝゞめゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
拾春上ゝゝば 朗 袖
猪ゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いけのこゑをきくらん

後春中　いとく後

ふりぬとて思ひあまるたぐひもなきまつの形くれ

この後

古春上　新撰

ちぶりのよるの花ちるまがきの陸べのこどうそを埋うづる

同雑上　拾別　家　第三重出　摂津

思ひのたちぬるまでとりあつめぬ物さびしみ家

家

かきくもるふるさとの道もしぬばぬ山城さとう山よりまぢかくこの形

以上四首

法師のまま

夫雑二　よしみね

法師のなげの山ぶきの藏

のなげの山ぶきの藏

童

ものかくるれば白雲のとやまぬ童のなげのめをぞする

夫春三　よしみね

ふるもしもあてなでふりてる雪の白ハ花の雪ぬ夫

うんの孫

古今戀一　在原元方

おとにきくたかしの浜のあだなみはかけしらでのみ袖をぬらす

伊勢集

かさねきもあるものをとるのふりしぬれはもせきあぐるさもくらべ

夫春三　よしみね　家

すみてのうへの月をみるかな

同雑一　よしみ

おもかげとおもふ物をこのなかのすてがたきをみるれ

なりけり

古戀四　伊　家

このぬぐとしらぬ白ふりをかをる

基　性　或本

万十二　拾戀五人丸　人丸集

しらぬ白ふりをかをる

万拾

そせい

後撰　よしみね

うくもあるかの吹きあてをそれ人の戀を洞とあさぬ愛

後春上　よしみね

ちりぬるまうひあるをハ人のをれ花もちりけり

古今戀五　よしみね

伊勢

[illegible]

法師母き

大鏡 [illegible]

後春三長谷雄 [illegible]

[illegible]

新拾秋下人丸 夫雑 [illegible]

後春上 [illegible]

古本集 [illegible]

家 [illegible]

兼盛集

[illegible]

古今大歌所

[illegible]

[illegible]

[illegible]

万葉ニ落僧惜毛をチリソフヨシモと
よめるハ僧ハ俱の字にて夫
木のぎく〜ちるまくをもとよむべし

風雅雜上　和泉式部
くふハれひまこそあるれうきくるる
ちぐれぐちハいつもせーくど」
万代集ニふるときこそあるよりも
あらまてハうくのこときこゝろ」
古今秋上　大江千里
月ミれバちぐさ物こそかなしれ
とぐるひとりの秋にあらねど

万葉十一
千葉破神之伊垣毛可越今者吾名
之惜無」
家持集
紅葉のふくまつけてもおもはるる
さほ山ハ山ハ山やもミづる

玉葉四　賀之集
きく　玉集
人ちるハ秋よこのよんだや　そで集
万十
あき万
白露ハ深きぬぎめるる秋ハ
神奈月有ぬるうの三輪のやしろ
後冬　友則集
たゝーぐれふまぎ山ぞおるる
同　是則集
初時雨ふるぬぎも
同
カ〜ぬ月ぞ時ぞ　大和
同伊勢　家　素性集
深さ〜時雨ぞ　後
夏のそのの葉に出
ゆふだち
夏の夕ぞ　後集
万十　大和
夕ちの雨ハ
夫雜四野
夜の月ぞ

万秋三原
さもーらよ山あひ月ふ秋きぎの時雨のふるよちるハ七ーふる
同　玉葉二入充
家
たゝ山ぞ秋と雨をまふ
拾遠　家
大和ハくもぐりぬ神奈月時雨ぞちハ秋のくぞきれ
代冬　家
あ山ぬ白雨まぞ
家
月ーぐれふ山ぞ
月ぐ人ハ時よ
新十　雲　家
紅の時雨ふれぞやいそのくふるぐびごろん
家
雨ぬ神とぬぎぬとぐ
以上五首
ぬ雨

[illegible]

第五重出 万五 石卿 新拾遺 [illegible]

同十一 [illegible] 雜月條已出

紀記 [illegible]

古懸二 新万 家 賈之集 [illegible]

同離別家 [illegible]

万三春日王 夫雜十七帝王 [illegible]

[illegible]

人まろ 或本

伊勢集

[illegible]

真潤云万葉ニ某集ニ出シ云ハ其人ノ[illegible]ハ他人ノ[illegible]ヲ[illegible]ヤマシテ人丸ノ[illegible]カ[illegible]ル[illegible]世お[illegible]ひ[illegible]ん[illegible]ハ弓削皇子ノ[illegible]ん人丸集ニ出ル[illegible]ト[illegible]新勅撰ニ人丸[illegible]ル詞ト[illegible]

拾遺戀四

[illegible]

同三弓削皇子 新勅雜三人丸 家持集 夫雜山 第二重出 [illegible] 新持

[illegible]

ひとまろ

万十 新千戀三赤人 赤人集 [illegible]

古戀 [illegible] 新撰 秀袖 [illegible]

[illegible]

夫雜二 [illegible]

万四大伴像見 夫雜四野 [illegible]

大和 [illegible] 万夫

[illegible]

毛詩鶴鳴云鶴鳴于九皐聲聞于天 魚潛在淵云云

古雜下大伴里句 後六 [illegible]

[illegible]

ちふる 古今ヲ正ー [illegible]

文選歸去來辭云雲無心而出岫鳥倦飛而知還

[illegible]

古物名貫之

[illegible]

橘のあるもと　長門守長盛男

後離別　朗　金玉

[illegible]

貫之集　夫雜一　雨

[illegible]

万十　八万　二万　大和

[illegible]

同九

[illegible]

同土　風憲三年入道　古今入九集　第五里出

[illegible]

古今集

[illegible]

人丸

[illegible]

おもひ　を古　ひーイ　ていーイ　ひーイ　めつ古

[illegible]

おもひ

[illegible]

赤集　[illegible]

[illegible]

「[illegible]」

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛平歌合

秋の夜のあまてる月のひかりを
おくとつゆをまとそこそ
しかれ

抱朴子内篇極言云命危朝露
涅槃經菩薩品云觀是壽命云云如
朝露熟不久停

後秋中　家

小野の露の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

古今秋下　つらゆき朝臣

白露の色はひとつをいろいろにあきの木の葉をちぐさにもみん

危のことあらばあやふきと申べし
されどこゝハ秋後撰家集等よりとるとあるを二ツとすべし

万十　人丸集
秋萩の屋戸おしあくこゑをよもふまじとぞせこちらさでもこもれ

古憲三業正　家　第五重出
ひさかたの月のかつらのさくらゑの袖とうもあハでおしぬるかな

後秋中　藤原清正
ぬるよりもあるるあしの形ならんハ白露のくみくさをおくるなるものしたふ

万十　新勅撰秋一　人丸集
白露をこのきの萩のとハ万新人　とハちひろにこぼれてとくことをあへ

きゝ法の花ふるものを思ふまよ家者ハ秋もきてこゝろるこゝ

後秋中　よみ人しらず
ゑをうつにてくさのをるものをきゝこゝろのこゝ人ハいふらん

保勢

同　拾秋　家
うゑたてゝ君がきめゆふ形ならばまもみてをくもみてをくもこゝ

法門のきこうん　エキン

同　伊勢集
ふるゝのうきもあぢきなくもこゝ人みてのうきもあやうきこゝの城

万十　新古秋上　人丸集　家持
秋ちきりのこゝろるのこゝ方新　ゆきつもまぜおきて更めこゝ

万葉十
秋萩子之上爾置有白露之消鴨死
後戀爾不有者
吾屋前秋萩子上置露市白霜吾戀
日八而

この歌ハ二ツとハ思ハぬ歌なりさる例集中よ多し

秋ちぎの上るおきてる白露のいちぢるくしもあきひとやも

万十　古秋上　人丸集
ひのきの下ちるおしあくこゑのもとおしあくこゑ人けさ人

同　第五重出
ゑをうつにてくさのをるものをきゝこゝ人ハ

同
秋萩ハ上るきこゝるおくゝこゝ方ハ

同十一
まちてうちへいくゝ白露の玉ハおくゝ

こゝゆき

古秋下　新万　異本家集
きゝつゝ月のかつらのかつらこゝ

古こゝ

後秋中　家持集　家　代秋上
秋の月のかつらの白露を後持　おくゝ後　庭の白露持代

こゝ月の日とあハ昨日の誤りあべし
義なほきのふまでこゝ

万葉十　新万　異本家集
秋の月のかつらの白露を後
ぬるまでおきるこゝ

白露の里

古今離別　　寵

あきふかげなるへき君〳〵はいまだ
おもひこそめる　そまきこそ

貫之集　古本宗于集
そのゝやなをおきゝもあへてはなさかりなるけふ
万葉　新勅撰　人丸集
あしひきの　秋風　しの　新　ち万新人　おき万新　文
白妙の　ゆふ　夫雑六　古　猿丸集　ふぢ古　ハ万　きぬ万
後雑四　藤原忠國　そでよおくもの　ハ万　ハ万古猿
古秋下　猿丸集　もの古猿　ふぢ古
の万拾　拾雑秋　人丸集　ハ万古猿
古秋上　家持集　たら古持
いとゝもかとのぬ　袖の　ぜふきて万玉　ハ万　ハ万　ハ万
万八　山口女三　王憲四　きたる万玉
周下　続後秋下　ハ万　ハ万
新本人丸集

万葉十
足引山道不知白杜枝母等乎々
爾雪落者

古今秋上　　よゝ人もしば

古秋下　家
ものおもふやとの屋のあるやなんの
工本　為本　ハ万
同恋三　古本家　河花宴　久河　おもひそめ　古
ゆふ　家
同恋三　王憲二
ちはやぶる　勅後拾秋下　貫之　まくまと新
ちはやぶる　王憲二　妹　ち万　ち万　ち万
同　続後恋三　夫雑一　ち万
ちはやぶる　ちはやぶる　ちはやぶる　ちはやぶる　ちはやぶる

忠峯

つゝもき

石川女郎　傳未詳

つゝゆき

人丸集

[illegible]

後撰秋下　元方

おもくらくもつく山のもみぢゝ
わくれさそぐらあやおくん

木の葉ちる秋のまづくるそぼちつゝ
たびまよひくぞ思ふ　貫之集

菊の花宵おちそひゆくのよふきんと　七集
詠この志るしむ

新古良傷遍昭　朝
貫之集　サ

みゝ　こく

家持集
子ねまつくきあぐ　ふよふけぬ持
百十九　家持
あ[illegible]ひきの山のもゝぢよ宵あひて
ちんゆ方　ちぐえまく方
おつるこゝ城ら[illegible]
[illegible]ぎいくまゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

興風集

山ざくらはなをのほどをよそにみてすぐるうきぶしにぞ侍

続千載戀四　坂上是則

秋山をいでさたつきりのうもこめてたれをかとはまほしきかな

躬恒集

人めをも今はつゝまじすきがたきのもの山をも名をたにぞ

拾遺秋　貫之

ちりぬべき山のゝ[illegible]をおぎのやもとゝもにそよぐ[illegible]

後春中興風　家

山風の花をうばふ桜ばなまのこゝろぞほゞ〜ありける

古春上行平　新撰

まちつきるこゝろのたぬきをすゝ山風よりそ[illegible]

第二重出　近江

志がらきの宮ちを[illegible]

古恋三[illegible]

[illegible]

万八　源重女　新続古恋五

[illegible]

古春二貫之

[illegible]

古恋三[illegible]

[illegible]

大雑十七　[illegible]

[illegible]

[illegible]

真淵云山のつゝ〳〵ハ段〻とらよりわれ
夫木秋四　霧　光俊朝臣
あるさんくるのむ〳〵ぎりもれやでゝ
やまつゝ〳〵みゝあるれ

新後撰春上よしのゝ山のつゝ〳〵まもるもまもるたてるあり
夏中臣朝臣武良自　新古春上
はいつまはまもるれとみゆきふるまきもゆべよ雪ゆ
照日條已出　八方
さひつ〳〵もりふ〳〵ふるゝ〳〵つゝもるんはるよりとゝびをいうでてきん

要　こ　或本

家
なるを家
ゆゝべよくるるんやゝゝんゝゝ葉摘　ゆゝと雪れ　えゝくすゝん

き　ゆ　と

ひゝまろて

同二八九　京五重出
ゆゝぎりふ衣ゆゝぬまて　ゆゝ雪れ　たび孫　ゆゝ雪れ

古雑下よゝゝゝゝゝ　新撰
厚のゝくる雪よおぎゝゝゝれぎゝゝ思ひつきぬ世の中のゝゝ

古慰二ゝゝ
あきゝ雪れのゝたゝるのゝゝゝゝ　おゝゝゝゝゝ

朗詠云咽霧山鶯啼尚少穿砌蘆笋
葉綿今

源氏橋姫巻ふゝゝの秋ぎりゝゝ
時ゝゝゝゝゝ

古今春上　貫之

うめの花にほひをうつすときはなる
やどのあるじしられずとぞ思ふ

後撰云三のそこ　ちよくれたどりの
ひのあやとふさもゝつみてつゝ
りるとゝの一端一疋あぐと書紀
まへひとゝもゝとあり」
中務集
うちちくたちつるおのゝ子ゝも
やくちわうはのけりをそてる

和名抄錦綺類云蒋勢切韵云綺俗云一云訓加無支又一訓加無支似錦而薄者也
後撰秋下　忠峯
いくきくもえそそめにけるあきの
あさのゝゝきよりそまたれぬ」
伊勢物語
あしもあけばきつゝもめあでてくるあの
まぐきふゝてぜあをやつる

拾秋深養父　朗金玉
はのぎりのふるもとあてゝ
あき朗

山城
おぼつかあくぞこゝろにかゝる
後秋下ゝゝ人ゝ　友則集
みるがごとゝよ　ゝ支友
ゝ田びめおゝ業ゝもや山ハてゝるらむ　へ志友

秋くやはのたゝぎあゝ　たぎも蔵
夫秋四ゝ人ゝ
ゝろゝふゝらひあやハ秋ぎのは
ゝるもせごふる秋よぎりけれ

後秋中ゝ人ゝ　寛　新勅　興風集
浦ちくこゝ　秋きりハもゆ
あき興

拾意三ゝ人ゝ　ゝ集
はのもゝゝのとゝぬはは
秋山はもゝゝのふきいくきくもまゝで　綺ヲカヌ
ゝ弱ゝゝ　ゝ　ゝのゝとのあさ

古大歌所
あゝゝまゝたゝ　きゝ古
陸奥
ちゝりはぬもせるゝバやゝゝまてバすゝなし
大ゝ
ちゝゝゝバとれぎもはゝ
ちんゝ秋霧のまぎれゝゝぬ
同　ゝ
川ぎりの中はきゝまゝ
たまのあゝバとゝるまゝ
ゝれゝゝゝ

宇津保後撰巻上云ゝぬゝひのもと
までおくりたてまつゝまゝ
どもやまぐちをゝ　ゝとぬとも
ゝゝゝゝれハ云ゝ

万九　舎人皇子
ぬぐゝ　大和
きゝハたちぬ　方
河松風
秋きりのたゝ山　河
ゝのゝふぐちハうゝでゝるきうゝゝゝゝて

要　こく

拾秋ゝ人ゝ　家
ちりぬべき山のゝまを　せ拾家
秋ぎりのやゝくゝゝゝ

万九　新古　夫秋四ゝ人ゝ
秋ぎりのぬゝ　袖を　方新
あさ方　赤人集
同三
何ゝ　河ゝゝゝ　方
ぎの赤

霜

同十　續後意四赤人　家　夫春二春
ゝきれハ　ゝゝ　ゝ　後家
古大哥所ゝ人ゝ　近江
ゝゝ　ゝ　ゝ　

秋風の吹きたるにけてしとふ人をくふ
ひとのこころにけそこふるこころん

契沖云おぼつかなしとは人をのおもひ
ふるこころとそこふ月もてるてこるを晴
ふくりあどするをよふるべし

和名抄啓飾具云孫恪切韵云髻和名比度以組束髮也

興風集

うきてあるかものうきもよそまのの
きこえてもおもをおもふこころを
あこうとけきこ心無解のこるべし

古今秋下　なりひら

ちるあぶる秋代もきぐ三四川
かくこれあるふるくるこ

後冬よしこ人しば
分をとるこけて寒やおくこ
こんこのぶ人のまとのまこ
ふかまもてくお

さん後　ふるこ

古憑三友則　寛新万家
俤の寒よおくこ寒すりも猶ある
ものこそ新　こそ新
ものこそ新　こそ新

万十　字下　ふるこふう字
志もぐとりまこ
ふるこ　ふるこ

ぬ万
こんこ人ものまこ
ぬ万

まこぐふる

古雑下　新撰　後文　のう新
ナのよ井のよ形ぐきよ
同憑四よこ　第五重出
見こぐハ形やへも入じ
万十　人丸集　古本家持集　よぶ万
やまのびふにれこる寒見ふのこんけ
万十　人丸集　古本家持集　ふる万
さんと森の寒ま山ふ
新古秋下　人丸　ふふ人持
うきこてめる明ふ上もふ
本のこまこ
緬
ふこ寒ふ
おきこ

ふこるふふこ
錦綺類云夾纈東宮切韵釋氏曰纈
地間云加　字分知　結帛為文綵也
あれこ
ふれこ伊呂波字類抄云纈
とありきこ本文寒の
るいこ
ぶるふ
東のあやこ
袖中抄巻五云ちぶれとよこて
ちぶれのこ久老ど病床漫筆ふ
賀茂保憲女集
ふれあのこまぶれ
こうこうてねこ
うふれの伯
万葉八　山邊赤人
從明日者春菜摘跡標之野爾昨日毛今日毛雪波布利管
此山ふも
とふる條
いつこ
られこ

後雜二　古本集
おもひ
ふ
同冬
きこ
撮津

万十　作者未詳　新拾秋下　人丸　古本家集
雨
古憑三　家　第五重出　古家
伊勢集
夫冬二

雪

万十七　紀朝臣男梶　夫冬三
山のこ
同十　拾冬　人丸　新朝
人丸集　古本家持集
ふ
ふ
異本貫之集
ふ
ふ
集　集
ふ
ふ
ふ
ふ

玉ふおろ〳〵はるゝを見て人ゝ
よみてゝるゝあぐをとるやぐら
あさてんこゝとゝゝ」
家持集
ゝゝゝ

貫之集　風冬貫之

[illegible]

同　代憲二貫之　あ代

[illegible]

後冬　[illegible]　躬恒集　第五重出

[illegible]

古冬　忠峯　新万　新撰　家

[illegible]

[illegible]　新撰

[illegible]

古冬　たゞみね　寛　新万　家

[illegible]

[illegible]　新万

[illegible]

古雑下業平　伊　家

[illegible]

同冬　小野篁　新撰

[illegible]

忠峯集

[illegible]

後撰戀三　ちんぜ

[illegible]

入ふ　人のおとづれもせぬ

古今春下　よしさだの宗貞

[illegible]

同大歌所

[illegible]

同興風　拾遺人丸　寛　新撰　興風集

[illegible]　新

同紀秋岑

[illegible]

万十　續後撰冬

[illegible]

同十

[illegible]

同八忌部首黒麻呂

[illegible]

[illegible]　万

[illegible]

伊　古本業平集

[illegible]

後憲四承春殿中納言　大　え後

[illegible]

[illegible]

大和物語

[illegible]

古今雑下　菊系のたゞき

[illegible]

[illegible]

[illegible]　従四位下美濃王　男

[illegible]

[illegible]　陸奥

[illegible]

[illegible]　とそ　[illegible]

[illegible]　伊　[illegible]

[illegible]　夜ヲカ

[illegible]

古今 貫之 家
ちるとふれば あぐるうちさる 春も まもなき 山ぬ花で 咲ける

貫之集
ふるさとや 花ふ咲てたのもしん なごりこのよく ありがてるる

古今 ちるを
春とふりかく 人とよろぬ そなれや 沢さうも 多く 思ひきゆ

同 よろぶ
冬 あぐ 雪 ふり 花の 中 ぬ くる ふ 雪の ひ あ く ふ 雪 や み こ む

同 是則 家
あき ほ ま ち み の の 月 こ る ま で よ 吉野 の さ ら ふ れ る 白 雪

大和 山家

同 よ ぬ ぐ 新撰
ぬ ぐ る ま る も 咲 き 千 年 ま で あ た ら ば ば こ を ま れ る 杜 こ め

後冬 よ ま き
松 の ど て こ る 雪 の こ れ を こ そ み 杜 花 ふ い よ べ ら り け ど

も 後

同 躬恒集
冬 あ く 咲 つ む 雪 を と ん る 時 で 富 士 の こ る ね よ 行 ち 出 る

古今 貫之
う ち ぐ る の ふ り あ る 雪 る こ う り さ ば ば ち く 古イ ま ま ひ 古

同 友則 家 新撰 廿朗
雪 ふ 梯 ば 冬 こ ん に 梯 で 咲 ち く る い づ れ を 梅 と ま き て 折 ま し

同 よ ま く ぎ 家持集
ゆ ふ ぐ れ い こ る き こ ま み ち の こ る き こ ま ふ ら ま

さ古 よ の 山 古 ま の 持

寛平哥合
ひとりまつ 枝ま かれる 雪もこそ
冬の 雪こ ふ いふ ぐ ら り け ま

新撰 万葉下
冬来者梅丹雪計曽降紛倍何礼之
枝緒花砥折申
万葉十
高山者衣袖寒之高松之山木毎雪

曽零有

此うた万葉ホ平〻く赤人と有るをいつで後撰金玉集まよく人まくと出きれりん古本人丸集 家持集は入れるは誤あるる歟

同 清まる時 まるれば 銭 加賀
あらひて

万八 朗 廿 古本集
こ ま ま ま と 思 ひ 梅 の 花 ま れ る こ こ で 雪 の ふ れ ば

後冬 ふ ま く ま く 新万
ま ふ れ ど も ま ま ま ぬ 松 ぐ く よ 加 れ る 雪 を ま ま ま

万十 夫冬三又雑二山
夕 さ れ ば 衣 ま て こ る 雪 は 山 の 木 毎 よ 雪 で ふ ま し

同 古本人丸集 家持集
と ど ま ま を け ま ま と 出 ま れ ば あ ま ま ま ふ れ る 雪 も 古本 ま ま 万

同 新後拾冬 家持集
雪 虫 の 山 よ 白 き ば の 新 ま ま 万 持 ま ま 万 持

同 夫雑四野 和
ふ ま

後冬 と 後
ま ま ま れ の 枝 も 折 ら び て 雪 ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま

同 後冬 も 後
ま つ き ま ま て ま よ み ど ま あ ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま

同 古本 集
あ ま ま の 雪 ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま

た後 加賀
ま ま

万葉ホ吉名張こありてフバリと刑せ〻ろ〻〻こ〻をなぐりとよむべ
よをふる雪あやまれるん
寛平歌合
紅葉れの枝よ雪ひびそ雪〻雪を
雪なくやひてくれどあるきぬ

新古今春上　いせ

山ざくらちりてこゆきまがひあば
いづれちとまるとまとふあん

よくまれなのとあるハこゝろ〜後撰
ホふるこゝとあるぞ可しき

後冬　人おきてこぶくてどうめをもるもいづれの後
同　あてふ後　おしーあぐ集　ちるのふまぶ系方の杉をたづねてとふ人もなし
同　た後　ひちーめづーげあく　寛やき後　ゆ〜やなーんまつもり形ば
古冬　ふるもるハうつぞけぬしろ川の山のたきつせまきるかり
同　雑上　緑のトつよふりつむもるの末をおもーもとづちり系こゝ式　さうりふも古
寛　家持集　大冬三宗于　月　抜ふハるぞふる井のちよふくーくもを後り拂いん　ゆ寛持光　久寛持光
百平　新古春上家持　家　大雑上檜　まきもくーも　檜系もいまぐくもるおばい松ゲすもよ　涙もぞふる　ゆ方　うれ方新　さき持
同　大和　古本人丸集　あーもるハりさハふそ白妙の袖まきわさん人もあーもるん
同　古本人丸集　同　第五重出　さーもの系よもぐれ　くや　きいも　うれもしの古　おわひけあぶらも系をもいハぎーておもわ
同　同　ひーあーん人よもふく　あまぎーか　ひきりも系　きんぞへれる古　ひきーー集　ふくーるもるもけめぐくおもわ
同　同　系きぐあーふくーいもやけぶもひきもあぐ　むか方　ぞか方　そもこゝ方

契冲云まづうひハ間使あり　万葉六
赤人の長歌ゑ間使裳不遣而吾者
とゝあるをもてしるべしとおもふ

万葉一
見吉野乃山下風之寒久爾為當也
今夜毛我獨宿牟

同　古本人丸集　梅　ちるそれもこゝぶふるもるのいちぎろうんなまづうひやーぐで　うちもこゝろ古　るくーてうひあーそ古
同　夫雑四爵　あまのとぶふ　たつ方　大和　ゆ方　ぞ方　ぞ方
新方　ゆけ新　ぞ方　ぞ方　ぞ方

寛平歌合

[illegible]

契冲云[illegible]

後春上友則 家

[illegible]

古意二宗岳大頼 第五重出

[illegible]

[illegible]

後冬[illegible]寛 新万

[illegible]

古意三[illegible] 後冬[illegible] 家

[illegible]

後冬[illegible]寛 新万

[illegible]

賀之集

[illegible]

火

詞意上[illegible]寛 新万 新勅意二

[illegible]

詞寛万勅

和名抄燈火類云唐韵云燎 漢語抄云放燎 此猛火也云云

古今すゝけ[illegible] 小町

おきのゐて[illegible]

[illegible]

契冲云かびい万葉ニ蚊火とも[illegible]

いまの世遣火あり

万三門部王 夫雑ヒ浦より[illegible]

[illegible]

我[illegible]

寛 新万

人を[illegible]

詞意上大中臣能宣

[illegible]

古意一[illegible]新撰[illegible]

[illegible]

万十 新古意一九 家

[illegible]

同十九家持

[illegible]

[illegible]

新勅意[illegible]摂津

[illegible]

後離別 貫之 家

[illegible]

同意一伊勢 家

[illegible]

後撰のもし[illegible]云みちの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 八雲御抄 盛表記ある

けぶり

古歌四 [illegible] 伊 [illegible]
いせの海士の塩焼けぶり風をいたみ思ひぬるかな [illegible]
もみ古伊

拾遠二 貫之 續古今三 [illegible]
いつくとてもとぶらひぶらんやまの拾イ

貫之集
土のたくひ煙でたりて大かの [illegible]

古新 [illegible]
不[illegible]

後撰三 同人
[illegible]

貫之集
[illegible]

伊勢集
[illegible]

同 [illegible] 新古雜中 [illegible] 夫雜七 [illegible]
[illegible] 万新

此ことは [illegible] 松のけぶりとよ
けるハ [illegible] 松のけぶりとよ
ある [illegible] 續詞花集戯笑部 [illegible] 松の
けぶり [illegible]
いつ [illegible]
[illegible]
墨經云古用松煙石墨二種石墨自魏晉以後無聞松煙之製高矣

古今長歌

[illegible]

万葉十五 中臣宅守
知里比治能可受受爾母安良奴和礼
由惠爾於毛比和夫良年伊母我可
奈思佐

知度論第九十四云積微塵成山難可得移動

古今序云 [illegible]
[illegible]

椎園翁云神代紀云 [illegible]
[illegible]

古今戀四
なりひら [illegible]
[illegible]

新撰
[illegible]

古雜 [illegible]
[illegible]

古戀三 伊勢 家
[illegible]

万三八九 夫雜 雲 [illegible]
[illegible]

同九
[illegible]

古戀四 [illegible]
[illegible]

後撰六
[illegible]

おぐめしてふれば　ぬるべ　あまつ　神もうれし　雨よ　降り　初
万二　拾恋一　人丸　家
てしもの　八まこと　ぐ　ぐれ　降る　神の　ちるなり　やはや　ふの　ちろ　あん
古恋一　貫之　新万　家　るべき　拾家
あふ　ふ
万七　夫雑一　人丸　古　新
ひの　ま　ま　の　ま　ひ　う　て　降る　ふ　ふ　れ　ば　お　そ　ら　ー　ね　ば　ま　ー　も
万　万夫
あぐ　ふ　の　ふ　ま　れ　神　ま　れ　や　く　る　ま　れ　も　な　ま　ま　る　ま
いなづま
古恋一　へを古
秋の田の　ほ　ろ　の　う　へ　て　に　稲　妻　に　光　の　ま　ま　も　る　ら　で　ま　ー　き
いな　づ　ま　の　光　の　ま　ま　も　る　ら　で　ま　ー　い　ひ　ー　ー　ー　人　の　ら　ら　で　み　ら　る
ひ　び　イ
往　う　て　て　ん　あ　る　ま　ば　稲　づ　ま　の　ひ　ら　ま　ま　で　お　ど　ろ　ま　れ　き　る
稲　ま　あ　ー　う　げ　ろ　ふ　ぞ　ら　ま　ー　時　秋　の　た　の　ー　ー　ー　人　き　ら　ま　ら　ら
ま　ま　ま　

あまよとれどゝ絶てこゝろはぬらげろふのうつろひやすきこゝろ

二之五十終

河井文庫